

第4期スマート・クルーズ・アカデミー



平成26年5月6日～13日

<神戸⇒那覇＝基隆(台北)＝長崎＝別府＝神戸

7泊8日 at ボイジャー・オブ・ザ・シーズ>

主催：大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画：全国クルーズ活性化会議（研修クルーズ）

クルーズ・アカデミーの概要

第4期 スマート・クルーズ・アカデミー報告書 2014年

<神戸⇒那覇＝基隆(台北)＝長崎＝別府＝神戸

7泊8日 at ボイジャー・オブ・ザ・シーズ>



シップデータ

ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
 総トン数 137,276トン
 乗客定員 3,114人
 乗組員定員 1,181人
 全長 310M
 全幅 48M
 巡航速度 22ノット
 就航年 1999年



スケジュール

日次	月日	寄港地	入港	出港	宿泊・食事
1	5/6(火)	神戸(ポートターミナル) [OP] 日本		20:30	☎️🍴🍴 船中泊
2	5/7(水)	終日クルージング	—	—	☎️🍴🍴 船中泊
3	5/8(木)	那覇※1 [OP] 日本	09:00	17:00	☎️🍴🍴 船中泊
4	5/9(金)	基隆(台北) [OP] 台湾	10:00	19:00	☎️🍴🍴 船中泊
5	5/10(土)	終日クルージング	—	—	☎️🍴🍴 船中泊
6	5/11(日)	長崎※1 [OP]	07:00	16:00	☎️🍴🍴 船中泊
7	5/12(月)	別府※1 [OP] 日本	13:00	20:00	☎️🍴🍴 船中泊
8	5/13(火)	神戸(ポートターミナル)※2	14:00		☎️🍴 船中泊

スマート・クルーズ・アカデミーの詳細スケジュール

DAY	DATE	スケジュール	入港	出港
1	5月6日(火)	乗船後避難訓練 SHOWTIME(アイススケートショー)	-	20:30
2	5月7日(水)	終日クルージング(アカデミー・イベント DAY) 朝のジョギングと運動 第1日目 スマート・クルーズ・アカデミー アイススケート体験 WELCOME-PARTY フォーマルナイト SHOWTIME(プロダクションショー)	-	-
3	5月8日(木)	那覇(沖縄):午前(雨)、午後(快晴) 沖縄振興視察・セミナー 学生対抗ティベート大会準備 FAREWELL SHOWTIME(アクロバットショー)	9:00	17:00
4	5月9日(金)	基隆(台北、台湾) 台湾市内視察 WELCOMESHOWTIME(アクロバットショー)	10:00	19:00
5	5月10日(土)	終日クルージング(アカデミー・イベント DAY) スポーツ大会(DECK13 後方・運動服装) (ロッククライミング、ローラースケート・バスケットボール、卓球、パターゴルフ) 第2日目 スマート・クルーズ・アカデミー カクテル・レセプション フォーマルナイト SHOWTIME(プロダクションショー)	-	-
6	5月11日(日)	長崎:快晴 長崎港入港 女神大橋通過視察 長崎現地視察 長崎港出航 女神大橋通過視察 +スポーツ大会 SHOWTIME(ピアノ&エンターテイメント) 港湾関係者との交流会(café プロムナード)	7:00	16:00
7	5月12日(月)	別府:あいにくの雨 スポーツ=>雨のため中止 学生対抗ティベート発表会 別府現地視察 SHOWTIME(アイススケートショー)	13:00	20:00

		最後の交流会 (クラウンラウンジ(DECK14 後方))		
8	5月13日(火)	神戸:快晴 下船前反省会(会議室) 神戸(ポートターミナル)で下船後解散	14:00	-

スマートクルーズアカデミー・クルーズ活性化会議研修クルーズ アカデミー内容抜粋

- 「アジアにおける外交問題」星野俊也(大阪大学教授)
- 「アジアの少子化動向と経済成長論から考える今後のアジア経済」橋本浩幸(兵庫県立大学准教授)
- 「TPPと農業政策」倉本宜史(甲南大学講師)
- 「アジアを意識した日本のインフラ経営改革-空港-」黒石匡昭(新日本パブリックアフェアーズ株式会社 取締役 インフラフォーラムサポーター)
- 「アジアにおける、日本の地域と自治体の役割」齊藤由里恵(徳山大学准教授)
- 「関西における物流戦略チームの取り組みと今後の課題」上村多恵子(京南倉庫代表取締役社長、京都経済同友会常任幹事、関西経済同友会幹事)
- 「世界の港湾・クルーズ動向・地域活性化に向けて」赤井伸郎(大阪大学教授)
- 参加港湾における取り組み(各港湾5分)×9自治体
<石川県,徳島県,敦賀市,八代市,福井県,境港管理組合,静岡県,島根県,,福岡市>
- 「安全で開かれた日本実現のために~ビザ緩和の効果について~」<WEST(論文研究発表会)最優秀論文賞受賞・ISFJ(日本政策学生会議)政策提言賞受賞論文>(大阪大学法学部国際公共政策学科3年生グループ1)
- 「我が国の国際コンテナ戦略港湾の集荷力に関する一考」<WEST(論文研究発表会)分科会賞受賞>(大阪大学法学部国際公共政策学科3年生グループ2)

■ INDEX

はじめに	1
いよいよ、クルーズ・アカデミーが始まる！	1
ボーイジャーが見えた！いざ乗船！	4
1週間ボーイジャーで過ごしてみて	6
船内施設（ハード面）の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)	6
船内サービスの感想(食事・レストランサービス・cafe、バー、パエリアバ ツフェ)	12
船内サービス・施設の感想（スポーツActivity・体験型イベント(ダンス、 グローPARTYなど)	20
船内サービスの感想(キャビンサービス、その他船内の各部門オペレーショ ン(ホテルオペレーションなど。))	26
船内サービスの感想(SHOW, エンターテイメント)	30
スマート・クルーズ・アカデミー	36
1日目「アジア経済と日本の役割」	36
2日目「港湾他インフラの機能強化と交流拡大による地域活性化」	46
各寄港地の港での乗船下船時の対応とその改善策	52
各寄港地の魅力およびその発信方法	54
地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割 - 港湾関係者の発表や 船内での関係者との議論を踏まえての国・自治体政策のあり方など -	60

5月に実施されたクルーズ・アカデミー(神戸・沖縄・台北・長崎・別府・神戸7泊8日)に参加した学生の、学生ならではの素直な視点でのレポートです。

少し長いですが、乗船前に学生が何を感じているのか、興味深いです。ワクワクする学生、みんなが参加するので不安のまま参加する学生など。ぜひ御一読ください。また、乗船して、この学生がどの様になっていくのかも感じ取れると思います。なお、学生個人の意見ですので、事実関係・事情を把握していない場合もあります。参考として捉えていただければと思います。

いよいよ、クルーズアカデミーが始まる！

- ・二度目のボイジャー乗船だ。今回は、リラックスして過ごそう！
- ・3度目の乗船です。(ボイジャー号には2回目)前回とは違った楽しみ方をしよう！前回とは違って、海を見ながらゆっくり過ごす時間を持つことができればいいなあ！！しかし、ボイジャーには2度目の乗船ということもあり、途中で飽きてしまわないか少し心配！寄港地に対する期待もあります！特に沖縄や長崎は、自分の研究テーマとも密接に関連するので、期待も大きいです！
- ・乗船前、クルーズに関する知識はほとんどないに等しく、身近な人にもクルーズでの旅行を経験したことのある人はいないので、わかることといえば説明会やいただいたパンフレットの情報だけ。「タイタニック」は見たことがあるが、大金持ちが優雅に旅するもののはずだ。最近のクルーズはそうでもないということが徐々にわかってはきているが、不安。
- ・キャラクターや、ロッククライミング等のスポーツ施設、アイスショーを含む様々な施設など、幅広い年齢層がくまなく楽しめる工夫が盛りだくさんで、それらのエンターテイメントほぼすべてを楽しめるというのは、衝撃的。
- ・僕は今までの人生でクルーズに乗ったことがなく、今回が初めての乗船。事前の勉強会にも参加できなかったもので、クルーズに対して漠然としたイメージしかもっていない。クルーズ内では、パンフレットに書いてあったように、ショーを見たり、アイススケートをしたり、コース料理が食べたりなど、さまざまな活動ができるだろう。十分金額に見合う価値があ



- るだろう。
- ・クルーズへの当初のイメージは富裕層だけが乗れる贅沢な乗り物。しかし、実際に乗る前に説明会などで説明を聞き、クルーズ市場は拡大しつつあり、特に欧米のほうでは奢侈品ではなく一般的に家族旅行の一環としてクルーズを利用できるように普及しつつあるというのを聞き、このイメージは結構和らいでいる。
 - ・クルーズに対する期待はやっぱり最高級の料理を毎食食べられるという点。自分自身おいしいものを食べるのが大好きであるため、今回のクルーズ旅行では日本や韓国では食べられなさそうな料理に挑戦してみるというのに焦点を置きたい。
 - ・クルーズで最もしてみたいことは、ギャンブル。なぜなら、日本ではギャンブル自体認められてないため、接する機会が少ないから今回のクルーズで最もしてみたい。
 - ・船内生活の全てが休暇・娯楽のサービスを提供するという非日常な環境を可能な限り楽しみ、体感したい。
 - ・クルーズは時間とお金を持て余している富裕層のもの、とっていたけど、パンフレットを見ると豪華な設備と充実したアクティビティで、金額は妥当なのでは。元々、そこまでクルーズに興味があるわけでもなく、ゼミの同級生が全員参加するから参加しよう、という程度のモチベーションで参加することに決めました。
 - ・クルーズと言えばお金持ちの人が乗るもので、クルーズに乗るのにも、クルーズ船の中でも、とてもお金がかかり、学生の自分にはとても手の届くものではないのではないか。このクルーズでは自分の知らない見たことのないような世界が広がっているのだろう。それを全て吸収しよう！
 - ・一度乗ってしまえば大きい荷物の持ち運びをしなくても良い点が他の旅行にはない特徴だ。そして、かしこまらなくても良いというのが一番の驚き。毎食おいしい物を食べることができ飽きることなく遊び、勉強もする一週間になるだろう。
 - ・クルーズへのイメージとしては、一定以上の生活レベルをもち、時間もある人たちが、移動中も楽しく豪華な時間を過ごすためのもの、というイメージがある。正直、船で移動している間、どこかもっと観光したいというのが、時間もお金もない学生としてのわたしの意見のはずだ。
 - ・クルーズ内ではのんびりしよう。プールがあると聞いているので、ちょうど暖かい場所にもいくし、プールサイドでゆっくりといろいろ考えよう。
 - ・過去に3度(カリブ海2回、アメリカ西海岸1回)クルーズに乗船したことがあるが、ボイジャーオブザシーズは過去最大の規模であり、またロッククライミングやスケートなど特に若者には魅力的でエキサイティングなアクティビティ



を体験できるとのことで期待！！クルーズというと、豪華でお金と時間に余裕のある一部の階級のステータスというイメージがある。毎日遊びつくせないほどの施設を満喫し、朝起きたらまた違う街に着いている贅沢なんて学生のうちに経験できない体験だ。そのような船の中で行うアカデミーやゼミ活動も、いつもとは違う環境で行うことによって良い刺激を受けられることに期待！

- ・ 去年の様子を写真でみて、レストランの様子やダンスをしている様子など、本当に船の上だとは思えないものばかりで、海上でそんな経験ができるというクルーズ船内のイメージを持つことができている。複数の寄港地に寄ることができること、船内で色んな活動をするなど、とても楽しみがいっぱい！
- ・ 実は、私はアメリカでフロリダ⇄バハマのカーニバルクルーズに乗ったことがあるので、クルーズに対するイメージはおおよそつく。ただ、以前乗った船舶は7万トンほどで、今回は13万トン規模で倍以上のサイズなので、どれほどの迫力があるか楽しみ。
- ・ クルーズ船内で、第一にしようと思っているのがロッククライミング、それからアイススケート、ショーの鑑賞など。1週間で4箇所に寄港でき、船内でのアクティビティ、食事、宿泊も全部込みの旅行としてはかなりお得。
- ・ 金銭的に余裕はないけど、乗る価値は十分あり、乗らなければ絶対後悔すると思ったので、少々無理して参加する。乗船前の準備で困っていることは、セミフォーマルの服装の規定。準備するまでその存在を知らず、普段の服装が、デニムにスニーカーといったカジュアルなものが多いので困っている。
- ・ 正直、準備めんどい。フォーマル・セミフォーマルの服装は何を持っていけばいいのか、部屋着、船内うろつく格好はどうしようなど服装関係でいろいろ悩む。
- ・ とにかく楽しみ！それぞれの寄港地での観光も楽しみだし、船内でのアクティビティ（特に毎晩のショー）もとても楽しみ！明日、船の中で生活しているということがなかなか想像できない。そもそも船について写真や動画で見たことがあるだけで、どれぐらいの大きさで中はどのような感じで、スタッフの方はどのような感じで、といったことが全くイメージできない！
- ・ クルーズ中は、船上で楽しめることが豊富にあり、食事からアクティビティまで充実しているものであると、想像する。クルーズ中の1週間は普段の生活では絶対にできない生活になるので、いつもより感覚を研ぎ澄まし、身近なところから多くを発見していきたい。建物の作りからサービスの内容まで、色々なものを観察したい。あとは、ゼミの仲間たちとたくさん時間を過ごして、思考を深めたい。
- ・ クルーズは高級なものというイメージが強く、服装やマナー等の点で不安。
- ・ とても大きな船ということを知っているので船というよりホテルのようなもの



だろう。

- ・パンフレットを事前に読んで、エンターテインメントが充実していることを知ったので、クルーズではそちらも堪能したい。特に、海の上でのスケートとプールは興味がある。
- ・船の中にスケートリンクやシアター、図書館があり、プールも一つではなく、スパやジムもあり、こんなに盛りだくさんの鉄の塊が本当に浮くのかなど、驚き。
- ・クルーズに対しては、とにかく大きな船に乗っていくという事以外何も想像できない。
- ・船に乗っている外国人の方々と、たくさん話してみたい。
- ・煌びやかで華やかなもので、上流階級の方々や海外の方々がよく利用しているのでは。
- ・クルーズでは、海外の方々との交流や一度も経験したことがないカジノをしてみたい。
- ・天候が悪いとすぐに船が揺れ、インターネットを使おうと思っても使うことができない状況だ。
- ・自分にとってこれはとても素晴らしいチャンスだ。その理由は自分の興味のあることを一度に出来るから。英語を使える、日本の素晴らしさをどのように外国人に伝えるのかという実際の活動を自分の目で知れる、船の中、各観光地でも多くの人と話して自分の知識をより広げていきたい。



ボイジャーが見えた！いざ乗船！

- ・大きい！
- ・外からは海の上を巨大なマンションが移動しているように見えるのだろう
- ・ボイジャーが見えた瞬間、その大きさに鳥肌が立つ！
- ・友達の声に反応してふと見ると、とてつもなく大きな、建物のような船が窓の外にあって、今から自分があれに乗って一週間旅するのかなと思うと、興奮！
- ・大きなホテルかショッピングモールだ！
- ・感じのいい立派なホテルで、船の上ということを忘れそう
- ・大きい船だとは聞いていたけれど、完全に私の想像を超えるもの。これから始まる一週間が楽しみでならない！
- ・クルーズ船が大きいということは言うまでもないが、それ以上に外から見える展

望デッキや客室、清掃をしているクルーたちを見ていると、いかに多くの人間がかかっているのを感じる。

- ・「イオンモールにホテルがくっついたようなもの」と表現していた人がいたが、正にその通りだ！内部も豪華でシャンデリアが美しい。
- ・実際に乗船する際に船を間近で見ると、さらに巨大に見え、クルーズとはこういうものなのか！
- ・乗船の手続きをするときに外国人の係員や船員が多数おり、日本人係員と外国人係員が英語で会話しながらともに仕事をしているのがとても刺激的でカッコよい。実際自分も将来あのように国際的な仕事をしてみたい！
- ・船内に入って見たとき、一瞬ここは船の中なのかと目を疑うほど広く、豪華で、まるで一流ホテルの中にいるかのような気持ちに。
- ・船内にいるときも船に乗っていることを忘れてしまうくらい全く揺れも感じなく、非常に快適。
- ・初めて船を見た。私の想像以上に巨大な船だ！
- ・船の全景を見ると、想像をはるかに上回る存在に感じ感動
- ・外観のみならず内装にも圧倒された。カジュアル船とはいえハードは相当に 豪華絢爛で、船の上とは思えない。
- ・ポータルライナーから船が見えたとき、あまりの大きさに思わず声をあげてしまいました。それほど船の大きさは想像を超えている。
- ・まさに海の建造物と呼ぶにふさわしいほど大きく立派で、この船に乗ることができるのかと思うととてもワクワク
- ・船内に入ると部屋があるデッキはホテルのようで、また、びっしり並んでいる部屋を見てまたもや船の大きさに驚き。



- ・店が並んでいるプロムナードは、異国情緒あふれる風景で、船の中にいることを忘れそう
- ・乗船する前、電車から船は見えていたが、あまりに大きかったため、当初はクルーズではなく、ポータルターミナルだと勘違い
- ・カフェの飲物・食べ物が基本無料だということに驚き。
- ・この船を造るときにはどのような技術が用いられ、どれほどの労働力が費やされ、どのような工程を経てきたのかということに考えがめぐります。
- ・船のなかであるとは信じられないほど数多くの施設が設備されていて、船というより娯楽施設に近いような印象

- ・正直、初めて見たときは「え！！こんなにでかいの！！ビルやん！！」と驚き。
- ・想像以上に船内施設が地上の普通の建物と変わらない、もしくはそれ以上であることにびっくりし、水の上であることが信じられない。
- ・想像はしていたけれど、初めて船を見たときはやはりその大きさに驚き。
- ・初めて外観を直接見て他の船と比較して、ただただその大きさに圧倒される。
- ・縦に高だけでなく奥ゆきもあり、ターミナルに着いて写真を撮ろうとすると全体像が入らないほど。船内はホテルというより街という印象。
- ・海外のリゾートホテルが船の形をして港に浮かんでいて、その大きさと外観に驚き。
- ・全体像を写真に収めようとして船首側まで行くのがとても大変。
- ・船内に入ったときは、船の中とは思えないエレベーターホールからの景色に驚き。
- ・船室ゾーンは、普通のホテルと変わらない廊下が続いており、しかしながらその長さにもやはり驚き。
- ・吹き抜け構造によって生まれた開放的な空間、インテリアの一つひとつに感じる煌びやかさ等、非日常的な生活を送ることができるかと期待。
- ・船内は綺麗で本当に色々な娯楽が出来そうで1週間の生活が楽しみに！



1 週間ボイジャーで過ごしてみて

 船内施設（ハード面）の感想（船内施設・施設のレイアウトなど）

＜取りまとめ役からの追記：アイススケート場などの動線は最新の船では改良されています。案内表示も飛躍的に改善しています。ボイジャーも 2014 年に大幅改装されます。＞

- ・バルコニー部屋はとても心地が良かった。プロムナードカフェでコーヒーとサンドイッチを持ってきて、朝食をとったりのんびり読書をしたりとすることができた。何よりも助かったのは、内側の部屋と違って朝昼夜の感覚がなくならない、ということだった。天候に恵まれず曇りは多かったが、それでも朝は部屋が明るく、夜は



暗くなるので、洋上の生活は前回よりも快適だった。バルコニーの外に出て、その日の天気を確認したり、港の写真を撮ったりすることもできた。船内施設はジム・ジャグジーが少し分かりにくいところがあったため、どこにあるのか最初は気づかなかった。あと、デッキプランを携帯せずに船内を散策すると方向感覚が分からなくなって、何度か迷った。前は、プールの貸し出しタオルの受付でシーパスカードを見せなくてはならなかったが、今回は何も見せずにフリーでタオルを貸し出してくれていた。フォトギャラリーでは、シーパスカードを通すだけで写真が見られてとても便利だった。ただ、連続乗船だったため、前半の写真が後半では見られなくなっていたのが残念だった。エレベーターの曜日プレートが毎日変わっていたが、一度深夜にエレベーターに乗ると、曜日のプレートがきちんとはまっていないことがあった。

- 客室のあるフロアは、内装に変化がなく、道に迷いやすかったように思います。また、船内を通り抜けできない場所はわかりづらかったように思います。
- 私は2度目の乗船だったにもかかわらず、よく道に迷っていました。何度か船内のスタッフの方や乗客の方に親切に道を教えていただきました。特に、各部屋付のボーイさんは、こちらから声をかけなかったにもかかわらず、道に迷っていると察して「どこに行きたいの？」と声をかけてくださいました。
- 船内のアナウンスが、ドアを開けない限り聞こえませんでした。テーブルの下にスピーカーがついていたので、もしかしたら他の部屋には聞こえていたのかも知れませんが。大切な放送を聞き逃しかねないので、コールサインだけでも客室内に流れるようにしていただければと思いました。
- 施設それぞれはみんなが楽しめる工夫がされていて満足でした。特にプロムナードは、ヨーロッパの街並みのようで、船上であることを忘れさせる、とても良い空間だったと思います。ただ、船内の移動は苦労した記憶が多いです。通り抜けできない階があるために上がったり下がったりしたり、スポーツコートに行くたびに、エレベーターからの回り道具合に面倒さを感じたり、導線の悪さが気になりました。
- 1週間以上窓なしの部屋で寝るのは少々つらかった。部屋が乾燥していた。次回乗船時はのど飴を携帯する。また、細かいことかもしれないが、呼び鈴かインターフォンのようなものが設置されておらず、ドアも厚めでノックが聞こえにくかったため、違う部屋の人と外出する際は多少不便であった。正直なところ、船内構造がとても分かりにくかった。船尾側からは通れない場所があったり、立ち入り禁止の表示が分かりにくかったりと、しっかりと船内を把握するまでに時間がかかった。船内、ということで多少詰め込んだような感じもした。例えば、ディ





スコや映画館、アイススケートリンクは想像以上に小さかった。不便のない程度の小ささなら良いが、アイススケートはショーの時少しやりづらそうであった。不可解な日本語表記も気になった。「デニッシュ」が「デンマーク語」になっている程度のミスなら船旅のちょっとした話題程度で済むが、これがもし重要な内容を含むものであったら笑い事では

済まされない。そのような誤表示は特に見当たらなかったのがよかったが、逆に言うと重要な部分に関しては管理がなされているものの、「デンマーク語」のようなあまり重要でない部分には目が行き届いていないということか。ながながと文句を並べてきたが、実際のところ船内設備は期待以上であった。ユニークなトイレがあったり、壁面まで凝ったデザインがされていたり、部屋の鏡が後頭部まで頭全体が見えるようにされていたりと、楽しませるだけでなく、ちょっとした工夫が所々見られた。

- 船内施設にはところどころ工夫がされており、エレベーターの床が毎日かわったり、プロムナードの装飾がかわったりしていて、乗客を楽しませるために工夫をしていることがうかがえた。また、プロムナードは本当に船の中なのかと思うほど、街並みがきれいに表現されていて、初めて見たときは感動した。
- 船内施設の感想としては船内に備わっている様々な施設に感銘を受けた。なぜなら、船内施設だけで言ったら地上で一般生活をしていることと違いがないくらい充実していたし、逆に船内の施設が多様すぎて船内生活において暇だなどと思う時間が全くなかったからである。なんととっても、ボイジャー規模のクルーズ船になると大体の施設は一回くらい使用できてもそのほかのよく探索しないと見つけられない施設や学生である以上金銭的余裕を考慮して動いていたため、有料施設を十分に満喫してみることができなかった。そのため、ボイジャーの全部の施設を十分に利用することができなかったが残念だった。施設のレイアウトに対しては、ボイジャー全般の雰囲気に合わせて様々な備品が置いてあったことが印象的だった。
- 申し分ない。雰囲気の面では非日常を演出し休暇を提供するパッケージの一部として素晴らしいと思う。しかし、設備としては船内の造りがわかりにくく、移動が面倒であった。また、清掃が行き届かず異臭がする場所もあったので残念であった。要望であるが、遊覧船のように海中が見られる環境を整備して欲しい。プロムナードは、夜に紫の照明を主体にしていたり、といったところから、まさにアメリカといった感じで特に日本向けにはアレンジしてい



ないという印象を受けました。施設に関しては、劇場やレストラン、プールやサウナなど一つ一つの施設が凝ったつくりをしていて感動しました。

- ・まず、満足した面・想像以上だった面からいうと、まず、プールがあって海水を使っているのは予想通りであったが、水温の異なるプールが3つぐらいあって、気温が悪くてもプールで楽しめるのがよかった。またジャグジーもかなり多く設置されていて、スポーツした後に気軽にジャグジーも楽しめる、という設計がかなり良かった。また、床などに曜日の書いたカーペットが敷いてあって、曜日を教えてくれたり、なんか訳の分からない置物が廊下に設置されたりしていて、それを見るのも楽しめた。悪かったと感じた面としては、全体的に構造が分かりにくかった点で、自分が悪い面も多々あるが、前半は道に迷う回数がとても多かったのもそこを何とかできないのかな、と感じた。またプールに関しては、タオルを貸してくれる場はあったものの、プールの近くに更衣室に類するものがなかったため、トイレや部屋で着替えなくてはならないのはあまりよくないな、と感じた。あと一回エレベーターが意味不明な動きをしたのがかなり怖かった。
- ・船内施設はカジノ、バー、レストラン、プール、ジム、シアターなど非常に充実していて、船内だけでも十分に楽しむことができ、カジノ、ショッピングでも多くの人がお金を落としてくれるだろうなと思えるほど質が高かったです。クルーズ船としては船の中で多くの時間を過ごし、お金を落としてもらおうほうがいいと思うので、船内施設を充実させることには力を入れているのだろうと感じました。
- ・1999年の船で改修をしているとはいえ、建造から15年が経過しているということで、豪華さの中にも古さを感じさせるところが幾つもあった。エレベーターのボタンの反応の悪さや、客室のプラスチック素材の部品の黄ばみで特に感じた。またスケートリンクとディスコが通り抜けできず、ところどころにアクセスの悪さを感じさせられた。トイレの場所ももう少しわかりやすく表示できるのではないだろうか(雰囲気は壊すことなしに)。分かりにくい場所にいろんな施設があり、サウナもなかなか見つけにくい場所にあった。船内の詳しい地図を各部に配置すべきだと感じた。舳先に行くことができるのはとても良かった。リンスインシャンプーをもう



少しグレードの高いものを使うべき。あとボディソープのほうがあのような船内だと便利だろう。

・キャビンまでの廊下が、場所によってはすごく長く、少し不便でした。廊下への入り口がもう少し多ければ良かったです。これまでいろいろな海外の安いホテルにも泊まってきましたが、あれほど狭いシャワールームは初めてでした。さすがに途中からは少し苦痛になりました。

・就航から15年ほど経っていることもあり、正直古さを感じる部分は多かった。特にエレベーターはボタン

表示が外れている、スピードが遅いという問題に加え、オペレーションが上手くいっていない時があるようだった。常に航海を続けている中での更新は難しいかもしれないが、大型船ではエレベーターを使用しての移動は必至であるため、急いでいる時は正直イライラすることもある。また船の構造上、5Fのプロムナードを経由しなければならないことが多いので、エレベーター内のボタン表示で5Fのところに印を付けておくなり、もう少し目立たせて欲しい。最初はプロムナードの位置が分からず、戸惑うことがあった。また場所を表記する際には何階の船首 or 船尾側であるかを分かりやすく明記し、船内にも船首 or 船尾の方向を示す表示が欲しい。イベントを開催する際はコンパスに表記するだけでなく、イベント会場にも表示が欲しい。コンパスだけを頼りにするのでなく、ふらっと立ち寄った場所で何分後からどんなイベントを実施するのかが分かれば、もっと気軽にイベントに参加できると思う。

- ・まず、初めて乗船した時に驚いたのはエレベーターが何台も船の中にあることでした。地上にある大きなビルの中となんら変わりのないその設備に、ボイジャーの大きさを改めて実感しました。船室はプロムナードに面していて、とても開放感がありました。男子メンバーの部屋は天井にベッドが1台収納されており、非常にコンパクトにまとめられていて、船の中の限られたスペースを上手に活用しているなど感心しました。また、船室のドアにデコレーションをしている部屋をいくつか見つけ、このような個性の出し方が船の上ではよくあることだと初めて知りました。経験者だけが知る通な楽しみ方だったと思います。また、船内にはいたるところに日本語表記の案内が見られましたが、半分の確率でおかしな日本語が使われていました。おそらく Google 翻訳に入れたと思われる出来でしたが、日本人のスタッフも乗船しているので訂正すればいいのになと思いました。ちなみに一番の傑作は、ディナーに2回ほど出た「ブルゴーニュ風エスカルゴ・・・ガーリックハーブバターソースをかけた柔らかいエスカルゴ。による世界的な不足にたぶん一時的に利用できない。」でした。



- ・照明で醸し出す雰囲気が非日常を演出していて良かった。シアターの手すり少し外れているのを数か所見つけたが、それ以外の箇所ですらそういった不具合は見当たらなかった。船自体が大きく、また迷うこともしばしばで歩き回ることが多かったため、店以外で、船内にもデッキにも、少し休憩をするような腰かけるようなベンチがあったらいいなと思った。
- ・船内の全体的なデザインは派手で、華やかな雰囲気が出ていたが、よくよく見て

みると所々に安っぽさというか、粗雑さが感じられた（カジノの床の飾りや、アクアリウム・バーの水槽を模した飾り等）。ただ、ダイニングルームは高級さに満ちていてとても良かったと思う。船内施設については概ね不自由がなく、十分楽しむことが出来た。ただ、プールは三つあるにも関わらず、ほとんどが同じ深さだったと思う（入ってないので確信は持てないが）子供のことも考慮し、プールごとに深さを変えてもよいのではないかと思った。

- 船内部の部分に、太陽の光が入らないのが、違和感というかどうにかならないかなと思った。デッキにいれば、すばらしい景色を楽しむことができるが、部屋が内側の部屋なら、朝起きて、下のレストラン行って、という行動をすると、まったく日を拝むことなく、朝を過ごしてしまい、天気すらわからない。船の中に居るけれども、普段と変わらない部分といったものも取り入れればなと思った。内装については、はじめはすばらしいと思ったし、豪華さを感じられたが、2・3日すると次第に飽きがきた。1週間すると慣れてきたので、まあこれはこれでよいのかなといったところかと思う。

- 船内施設についてはとても充実していて、満足でした。一週間いても飽きないどころか、回りきれないほどでした。ただ、若者が少ない客船でバスケットコートやジムといったスポーツコートがどれほど利用されているのかは少し疑問に思いました。もっと多くの人に利用してもらえるような場所の使い方もあるのではないかと感じました。回りきれなかった場所が多くあるのがとても心残りです。



- ボイジャー自体、15年ほど前に建造された船であるが、船内・船外ともに今でも先進的なデザインが施されており、格好良かった。船内施設は本当に充実していて、たくさんの娯楽施設はクルーズならではの特徴だろう。施設のレイアウトに関して言えば、キャビン外のトイレの、手拭き用の紙の設置場所が手洗い場から離れていて違和感をもったくらいである。
- 船内の施設はどれもとてもきれいでした。カフェ、ライブラリーやジャグジーなどゆったりできる共同のスペースがたくさんあること、深夜まで使えることがとても便利だと思いました。船内の見取り図があちこちにあるおかげで迷ってもすぐに解決できました。部屋が少し乾燥することと、特に自動販売機が無いことは少し不便さを感じました。また、エレベーターによって一階に停まるものと停まらないものがあるので、そのことを一言でも窓からの説明があれば分かりやすいだろうと思いました。エレベーターについては多くの乗客が困惑していました。
- 6日目に気付いたが、4階のトイレが使用不能になっており、他の階に行かなければならないのが大変だった。しかし、水回りの設備は月日を感じさせるところもあったが、想像していたより清潔で良かった。船内の様々な施設は、日本のホ

テルにはないカラフルな雰囲気がとても新鮮で楽しかった。船室は、想像以上に狭くそこに3人で過ごすことが苦痛であった。船内は広々としており、デッキによって様々な表情を見せるので魅力的であった。

- 船内には色々な施設があって、全く退屈しませんでした。船内の部屋にはバスタブがついていないので、プールやスパでリラックスできる場所があるのはとても嬉しかったです。エレベーターのマットの柄が毎日取り換えられていることにとっても驚きました。本当に小さなところまで気配りができているなと思いました。
- 良かったと思います。エレベーターの中に毎日、曜日の表示が変更することに私は素敵だと思いました。しかし、ボタンを軽く押しただけだと反応せず、しっかりゆっくり押さないといけなかった時、日本と違うのだなと感じました。また、船内施設のところどころにある人形が、予想以上に怖かったです。子どもが夜にプロムナードの人形を見ると、怖がると思います。

船内サービスの感想(食事・レストランサービス・café、バー、パエリアbuffet)

- レストランサービスは昨年のアカデミー乗船時よりもかなり向上していたように思う。アイスも溶けていなかったし、オーダーミスもまったくなかった。味についても、前回はかなり淡白だったが、今回は色々な味の料理が楽しめた。ウェイターも味やボリュームについての質問に丁寧に答えてくれたり、肉の焼き具合をきちんと確認してくれたりした。当然と言えば当然のサービスだが、前回の乗船を経験しているためか、レストランでのサービスについてはとても感動した。ウェイターには、乗客に媚を売るのではなく、良いおもてなしをしようという姿勢があったように思う。ツアー最終日の夜に歌っ



てくれた「贈る言葉」もとても良かった。ウェイターはやはりアンケートのことを気にしていたが、今回はサービスの中身が伴っていたため、さほどしつこく思わなかった。ただ、中にはハズレの料理もあったようだ。やっぱり料理そのものは、日本人にはあまり合わないのかなあと思った。レストランやバーのスタッフがとても丁寧だったためか、カフェのスタッフは少しぶっきらぼうに感じた。ウインジャマーカフェには、レストランのスタッフがいることもあり、私のテーブル担当のスタッフがいると、挨拶をしてくれた。船内のメニューは相変わらず誤訳が多かった。覚えているだけでも、「Assorted Danish」→「各種デンマーク語」、「Chunky Monkey(※アイスのフレーバー)」→「どっしりした猿」、「Turkey」→



「トルコ」、「Bacon」→「ツシュベーク」など。中には惜しいものもあったが、「各種デンマーク語」が前回から何も進歩していなかったことには少し驚いた。

・連続乗船をしたためか、クルーズの前半と後半に同じメニューの料理が提供されていたように感じます。全体的に大味な印象を受けました。途中で、魚介系のメインやムース・ゼリー系のデザートは失敗が少ないことに気づくことができました。「湯葉包み」という名前のものを頂いたにもかかわらず、湯葉らしきものは見当たりませんでした。

同じものを頼んでいた人と確認しあったのですが、やはり湯葉は見当たりませんでした。メニューが正確でないのか、料理のミスなのかはわかりませんが、少なくともメニューにあった白米についての独特のにおいが気になりました。ロブスターを食べることができて幸せでした。これはとてもおいしかった上、見た目にも楽しむことができました。室内のTVからルームサービスをオーダーできるのですが、オーダーのために電話するまでそのことがわかりませんでした。英語でもいいので、設備に関する解説書のようなものがあればと思いました。前回乗船した時よりも、食事はおいしくなっているように感じました。また、ミスを隠すような押しつけがましいサブもなく、毎日夕食が楽しみになるほど食事の時間を楽しむことができました。また、夜限定でカフェで提供されていた味噌汁のおかげで、日本の味に飢えることはありませんでした。

・アメリカの船ということで、正直食事に不安を持っていたのですが、メニューが豊富で毎晩楽しみなディナーをはじめ、いつでもおいしいマフィンやケーキを置いていて、コーヒー飲み放題のカフェプロムナード、ランチのオーダーメイドサラダなど、食事に関しては大満足でした。ディナーの時のテーブル担当者のパフォーマンスも、日本では見られない楽しいもので、良い時間を提供していただいたとおもいます。

・アメリカ標準のサイズなのか、食事にボリュームがあった。また、内容変更が多く、選択肢に関しては迷ってなかなか決められないほどに充実していたと言えるし、何よりサービスがよかった。お客様を楽しませ



る、という意識が感じられ、好印象であった。めったにできないプチセレブのような気分を味わうことができ、貴重な体験であった。ただ、朝食のビュッフェのサラダ類が全般的にあまり新鮮でなかったのは残念であった。

・私が船内サービスの中で満足度の高かったのがレストランサービスであった。前菜からデザートまでのすべてにおいて7泊8日間失敗がないくらいメニュー一つ一つの味がおいしかったという要因もあるが何より、各テーブルに配属されてい

るウェイターたちが自らが準備したエンタテイメントでお客たちを楽しませるとするのは新鮮だった。何より、日本のレストランに行くとき客とウェイターは要件以外のことに介入しないのが基本的だが、クルーズでのウェイターたちは積極的にお客と仲良くなろうと色々な工夫をしている姿が見えた。そのため、食事の時間が単に知り合いと話す場ではなく、新たなウェイターたちと仲良くなれる愉快的な場でもあったことに感銘を受けた。また、カフェでは、常時クルーズ乗客ならそのカフェにあるメニューなら大体無料で楽しめるという点で甘い物好きな僕にしてはパラダイスだった。バーではやはり商品自体の価格とチップを払わなければいけなかったため、高いとは感じていたものの、そのバー自体の雰囲気や船上ならではの状況を生かして見栄えをよくした点を考慮した場合、バーも私が今まで行ったことのあるバーの中で素晴らしいほうに含まれると感じた。最後にパエリアバッフェでは今までのレストランとは雰囲気が違って



料理する方々がどういう風に料理しているのか見えたうえ、船の屋根の外で食べたため、比較的熱い天候の中でもバカンス気分を味わえたと思う。

- 料理は野菜の鮮度・味付け等品質面で期待を下回った。好きな時に好きな量を食べられるのも良いが一食一食も重視して欲しい。食事のサービスに関しては、少し評価が低めです。ウェイターは、食事を運んで来たりお皿を下げたりといった基本的な仕事は行っているけれど、サービスを提供するという点があまりできていなかったように感じます。例えば、お皿を下げる際にフォークやナイフをたびたび落としたり、食べ終わっていることを確認しているにもかかわらず次の料理がなかなか来ないことがあったり、食べ残しのお皿を下げたりテーブルのパンくずを拾う際「これは僕たちのディナーになるから」などといった反応に困る冗談を言ったり、フォークを飛ばすパフォーマンスをしたりです。
- 食事は全体的に楽しめた。特に昼・夜はコースが毎日基本は替わっていたので、飽きずに楽しめた。パンの種類に幅があったり、昼は自分でサラダを作れたり毎日楽しく食事が出来た。Café はコーヒーのお世話になることが多く、また軽食も普通においしく毎日一度は訪れるほど良いところだった。ただ、朝食は種類が少なかったり、脂っこかったり日本語訳間違えていたりいろいろ気になる点が多かった。もう少し暖かく胃にやさしい食事を朝に食べたかった。レストランのサービスについては本当にレストランかと思うくらいウェイターが絡んできたのが印象的だった。到着前夜の歌もそうだが、かなり楽しんで仕事に取り組んでいる人が多いのではないかと感じた。
- 食事は毎回コース料理が出てきて、味もボリュームも非常に満足できるものでし

た。レストランのウェイターの人もチップを貰っているからか、非常に愛想が良く、手品やクイズを出してくれたりしてたくさん楽しませてくれ、エンターテイナーとしてもとてもいい人達でした。カフェが24時間開いているというのも非常に便利で魅力的でした。いつでもコーヒーや紅茶が飲め、軽食をとれ、とても重宝しました。バーでは様々な種類のお酒があり、少し大人な気分が楽しめました。

- メインダイニングでの食事は当初は楽しみにしていたが、量が多く、あまり美味しいとは言えなかったのが、段々残してしまうようになってしまった。一週間毎日違うメニューだったが、なかなか脂っこい料理が多く早く日本の料理が食べたいとまで思ってしまった。もう少し美味しければこの旅ももっと素晴らしい物になっていたと思うと残念。ウェイターの質にも差があり最初のテーブルの人は良かったが後半の人はかなり適当で、ああこんなものかという印象をもった。メニュー表も毎回出てくるすべてのものが使いすぎでかすれており、読めない部分すらあった。メニューの日本語が明らかにおかしく、実際にどのような料理かイメージ出来ないものも多かった。写真をのせるのも良いと思う。

- ウィンジャマーカフェでは、パン、オムレツ、パイナップル、シリアル、サラダ、天ぷらは美味しかったと記憶している、パイジュースばかり飲んでいて。バー・カフェは総じて美味しかった。バーの日本語メニューはもっと改善の余地があると感じた。カクテルの日本語メニューもあればいいと思いました。



- 料理によって味のクオリティーの差が激しかったことが驚きでした。特に、今回のようなアジア路線では重要であろう、アジア料理の味が特に良くなかったことは少し問題に感じました。また、日本語メニューの説明に不適切や誤りが目立ったのもサービス精神の欠如を感じ、信頼感を持てなかったです。日本のクルーズ需要を増やすならば食事や言語のことにはもっと気を遣うべきだと思います。
- 日本語表示がお粗末であることが多かった。食事は船上の最大の楽しみでもあり、メニューの表示は非常に重要である。日本語版がきちんと用意されているのは良いが、日本語訳が稚拙であったり、使い古されて文字が消えかけたりしていることが多かった。日本語を話せるスタッフが乗船しているにも関わらず、こうしたミスが散見されることは残念だった。また団体内で席替えをするなどして、いくつかのテーブルに座ったが、サーバーの対応に個人差がありすぎ、統一的高い水準のサービス提供がなされていないように感じた。料理の解説を懸命にしてくれる人もいれば、ナイフとフォークをきちんと準備していない、スープの器が下の皿の端に寄っている、メニューの一部が欠けている場合にも気づかずにサーブする人もいた。英語が上手く話せないアシスタントサーバーもいたが、これはあってはならないことだと思う(スペイン語と英語の違いが分かっておらず、英語の

発音自体怪しい)。また統一したマニュアルがないようで、各サーバーの愛嬌任せの部分も多いように感じた。特に日本人はきちんとした料理の説明や丁寧できめ細やかなサービスに慣れているので、こうしたサービス不足が満足度を大きく引き下げる可能性があるのではないかと。

- 朝食ビュッフェではメニューが固定化していた。さすがに1週間同じメニューでは飽きが出るし、日替わりのメニュー量を増やすなどして欲しい。さらに野菜が新鮮でなかったり、サラダのドレッシングが定番のもの(シーザーやサウザンアイランド)が置かれていないことが多かった。カフェではコーヒー・紅茶・水の無料提供があったが、日本人の習慣として喉が渴いた際にお水ばかり飲むことに慣れていない。アイスティーやスプライトぐらいは無料提供があってもいいのではないかと。またプールサイドではコーヒーのみの提供だったが、ここにこそ冷水が欲しい。

- 船での初めての食事であった6日のディナーは出航にかぶりましたが、それに気づかないほど揺れは全く感じませんでした。また、食事の際は各テーブルにウェイターさんが1人ずつ付いており、人によって個性が違い、毎日全く違う雰囲気ですべてを楽しめました。ウェイターさんは私たちの顔を覚えてくれて、ビュッフェ形式であった朝食の際にも



も見つけて配膳をしてくれました。このような細やかなサービスも、クルーズの印象を非常によくしてくれたように思います。夕食の際に日本語で「贈る言葉」を歌ってくれたことやパンを配膳するときのパフォーマンスなども私たちを楽しませてくれました。また、配膳などが徹底して女性からされていたことに欧米だなあとしみじみ実感しました。料理はやはり欧米ならではのボリュームと味の濃さでなかなか食べごたえがありました。食事をするところやカフェは似たり寄ったりにならないように、異なるテーマに基づいて作られていてよかった。席数も十分にあったと思う。主に夕食でメニューを見てオーダーをするとき、料理名とその簡単な説明文だけではどんなものか分かりにくいものがあった。

- 食事においては、個人的にはとても満足した。ダイニングルームでのディナーが特に美味しかった。一番嬉しかったのは、普段そんなに食べないステーキだけでなく、色んな野菜が入ったサラダや、スモークサーモンなども思う存分食べられたことである(野菜の値段は意外と高いので)。良かったと思うサービスは、ダイニングルームでランチを食べる時、自分のサラダを作れるシステムと、ディナー時のメニューで、シェフのおすすめコースが記載されていたことである。特に、シェフのおすすめコースは、メニューが多すぎてわからないときに、決めやすかった。
- プロムナードカフェもお気に入りだった。カフェで食べられる大きいクッキーや

サンドイッチは、日本のお店で食べると割高だが、それらを24時間いつでもいくらでも食べられるのは嬉しかったし、便利だった。ただ、朝食の時間にこそサンドイッチを食べたいのに、その時間だけ Windjammer カフェと同じパンが並んでいるのは残念だった。カフェでは、朝にもサンドイッチを置いてほしい。食事サービスにおいて感じた 問題点は二点ある。一つ目は、去年のクルーズ感想にもあった通り、メニューの日本語訳に違和感があることである。例えば、Windjammer Café で “Fish of the day” が「デイの魚」と記載されていたし、プロムナードカフェのアイスクリームのコーナーでは”Chunky Monkey” という名前のアイスクリームが「どっしりとした猿」と訳されていた。船に乗る前に想像していたよりも、このようなおかしい日本語は少なかったが、まだまだ改善する余地はあると思う。二つ目は、ダイニングルームのランチメニューが、前菜にあたるディッシュとメインにあたるディッシュをごちゃ混ぜに記載していることである。例えば、カルパッチョとパスタ類が同じリストに入っている日があった。カルパッチョが何か知っていれば、量の少なさを想像することができるが、もし知らなければ、想像していたものと違った、ということになるので分けて表示してほしい。三つ目は、量の多さである。特に、デザートは毎回多くて、食べることができなかった。アメリカ国籍の船なので、こうなることは予想できていたが、やはり、日本人好みの量に調整することが必要ではないかと思う。

- 船内の食事はとてもおいしくて、下宿の身からすれば、夢のような生活であった。ただ、こうなんというか、繊細さに欠けるといふか、何か足りないと思ったのも確かである。例えば、量が多すぎたり、デザートが甘すぎたり。ひとつの国、例えば、日本風の味付けにするのは、いろいろな国を回るクルーズとしては、難しいのかもしれない。もっと選択肢があれば、そのようなこともなくなるのではないかと思う。バーに関して言えば、ちゃんとした日本語トランスレートメニューが欲しかった。明らかに、英語メニューと日本語メニューに違いがあったので、そのような言語の障壁はできる限り減らすべきだと思う。

- 朝昼夜おいしいご飯が食べられて幸せでした。また、ダイニング、ウィンジャマーカフェ、プロムナードカフェのようにいくつかのお店の中から気分や服装に合わせて毎食、店を選べたのもうれしかったです。料理については、初めは普段とは違う豪華さや量に感動しましたが、やはり一週間も乗っていると味付けの濃さや量の多さにしんどくなってきました。一週間船で生活するうえで、毎日口にするようになる食事は、乗客の満足度にかかわるとも大きな要素の一つだと思うので、もう少し日本人やアジア人向けの配慮はできないものかと思いました。食事を乗客の趣向に配慮して少し変えるだけで、乗客のクルーズに対しての満足度は大き



く変わるのではないかなと思います。

- ・ サービスについては特に不満はありませんでしたが、やはり日本に比べると対応の丁寧さは少し欠けているように感じましたし、外国だなあ、という印象でした。
- ・ 乗客が取ることのできる食事は有料と無料に分かれていて、アルコールその他の飲料やアイスなどは有料である。ただほとんどの食事については追加払いせずとも満足に取ることができる。メインダイニングではテーブル席でコース料理を楽しめる。メニューは欧米食がほとんどだが、中華料理のようなものもあった。ごはんの満足度は個人により評価が異なるだろうが、個人的にはあれくらいのクオリティが妥当であると感じた。周りの学生はもっと繊細な味付けを期待していたようだが、ボイジャーのターゲット層を考慮すれば妥当なメニューだろう。ウェイターに関しては、人によってずいぶん異なっていて、サービス精神が高いウェイターから少々雑なウェイターもいる。言語面でも、英語すら曖昧なウェイターもいるが、あれだけの乗員数を維持させるためにはウェイターの質の維持も大変なのだろうと思う。しかし毎回同じウェイターがサービスしてくれることは良いことだと感じた。食事のたびに互いのことを知っていくので、どんどん楽しくなっていく。これは旅の満足度にも影響しそうである。ビュッフェスタイルのウィンジャマーカフェは豊富に種類がある。船内ではジュースは有料だが、ここではオレンジジュースとパイナップルジュースが飲める。ジュースはコーヒーより価格が高いためなのかわからないが、プロムナードカフェでもジュースが無料になっていれば子供は喜ぶだろう。プロムナードカフェではウェイターと仲良く話している客もいて、交流の場でもある。
- ・ 品質管理の問題もあり、飲料水を手に入れる場所に限られている。カフェ以外の場所では、ジムにある冷水器しか見つけられなかった。もう少し増えれば便利になると感じた。
- ・ 食事は想像していたよりおいしかったのですが、全体的にサイズが大きめで味付けが濃いように感じました。食事は国や文化、個人の嗜好で、合う合わないの違いが大きく出るものだと思うので、幅広い選択肢を用意していた方が様々な人が食事を楽しめるのではないかと、思いました。



朝食…バイキングのメニューが豊富だった

と思います。ただ、野菜が少ないように感じました。また、一週間で毎日同じメニューだったので少しずつ変化があった方が良いと思いました。朝食での窓からの景色はとてもきれいでした。港に着く様子がよく分かりました。

昼食…メインレストランで昼食をとった時…サラダをカスタマイズできるルールはとてもいいと思いました。しかし、ディナーのようにメインとデザートまでであるのは少し重いと思いました。

夕食…バラエティも豊富で味もおいしいと思いました。ただ、メニューの中身によって違いがあり過ぎて自分のおなかの空き具合に合わない時もあったので、写真を載せることやウェイターに説明させることを事前にしていればもっと分かりやすいのではないかと思います。デザートはかなりボリュームに差があったので特にそう思いました。

- 24 時間水、ミルク、コーヒー、カフェイン抜きコーヒーが飲みただけ飲める、部屋に持ち込むことができるということはとてもありがたかったです。クッキーはサイズも大きく大味で日本人の口にあまり合わないように感じましたが、サンドウィッチなどごはん系はとてもおいしかったです。8 時からの食事は、仕方のないことだとは分かっているが、料理が運ばれるタイミングが悪いと 10 時からの SHOW に間に合わないことが多々あり、心残りしたことのひとつだ。食事の内容は日替わりでバラエティーに富んでいて選ぶのが楽しかったが、塩分が多いものが多々あり食べきれないことがあった。デザートに関しても甘すぎるものが結構あり、味付けが全てアメリカンだと感じた。食事を運んでくれるウェイターたちは、皆親切でユニーク でよく笑わせてもらった。それに対してカフェのスタッフはどことなく対応が事務的だった。

- 11 デッキでの朝食は、ほぼ似たようなメニューが毎朝ならんでおり、味付けも濃いものが多いなと感じた。しかし、多様なメニューがあったので、その中で気に入りのものを見つけられることもでき、朝からバランスのいい食事が出来た。3 デッキから 5 デッキのレストランは、思っていたよりもカジュアルでウェイターさんのサービスも人によってはまちまちであったが、あまり不快に感じることもなく、総じて楽しませていただけた。5 デッキのカフェでは、いつでも何かを食べることができた。そこに置いてあるクッキーはとてもおいしく、様々な種類のサンドイッチもおいしかったと思う。ただ、混んでいる時間は席を見つけることが困難であった。バーではバーテンダーの方とゆっくり話すことが出来た。お酒もおいしく、気遣いも細やかで、とてもよかった。

- レストランで食べた料理は非常においしかった。おそらく今まで食べた料理の中で一番ではないかと思うほどのおいしさだった。コース料理自体食べたのはおそらく初めて

で、ナイフを使って料理を食べることも普段の生活ではなかなかないので、とてもいい経験になった。また、毎回夕食のたびに豪華なデザートが出てきて毎回すべてたべていたので少し太ったかもしれないが、ケーキやデザートなどは普段一人暮らしをしている身にとってはなかなか食べられなものなので、非常にありがたかった。また、特にレストランで食事をしているときに印象的だったのが、ウェイターの存在だった。初日のディナーでウェイターをしてくれたアセップはと



でも親しみやすく、サービス精神旺盛ですばらしいウェイターだった。中でも、フォークを使っての出し物やランプなどでのマジックは一級品だと思った。

船内サービス・施設の感想（スポーツ Activity・体験型イベント(ダンス、グロー
PARTY など)

- ・アイススケート、ロッククライミング、バスケットボールは一通り体験した。天候が悪い日が多かったので、ローラースケートが体験できなかったのは残念だった。ローラースケート部分は雨がかからないように屋根をつけてほしい。今回は、社交ダンスがとても楽しかった。社交ダンスのヒロ先生がとても私たちのことを気に入ってくれて、スタジオBでのダンスタイムでは、わざわざ他の乗客の皆さんに私たちのことを大学名を含めて紹介して下さった。こういった、普段出会えないような人たちとの出会いや、普段できないような経験ができることが、クルーズの醍醐味のひとつなのだなと感じた。
- ・悪天候のため、使えなかった施設もありました。閉鎖や中止の情報は、わかり次第張り紙をするなどして周知してほしかったです。係の方がやってくるまでしばらく待ちました。船の構造上仕方がないのかもしれませんが、卓球台のわきがいつも水浸しだったことが気になりました。大人用プールで 3～5 歳くらいの子供が遊んでいたことが気になりました。係の方が巡回するなどして利用方法を徹底していただければよりリラックスした時間を過ごせたと思います。
- ・ロッククライミングやインラインスケートが天候に大きく左右されるために、限られた時間のなかで楽しみきれなかったのが残念でした。社交ダンスは、バーで外野から眺めているのでも十分楽しかったので、次回は体験してみようと思いました。飛び入り参加、退散が自由な感じがいいなと思いました。グローパーティーは、ダンスが苦手なので乗り切れなかったところはありませんが、楽しい雰囲気よかったです。DJ は帰っても参加者だけで踊り続けるのが面白かったです。



- ・バスケットボール、サッカー、パターゴルフなど、万人受けするようなチョイスであったと思う。アメリカの客船でサッカーがあるのは少し意外ではある。卓球台もおいていたが、特に台湾人受けがよかったように思う。風の影響を大きく受けるので別の場所に設置しておいた方がよかった気もするが、それもそれで面白いかもしれない。
- ・グローPARTY は楽しかった。誰でも乗りやすいような曲選と雰囲気であった。普段は勇気がなくてできないような

ことをこういう場ではできるので、不思議な感覚であった。

- 船内でスポーツができるとは思っていなかった。海の上でやるバスケットボールやサッカーや卓球はなかなかいい経験だった。ふつう船内にいたら運動する機会はほとんどないが、今回のボイジャーのようにスポーツなどをのびのびとできる施設があるのは非常にいいことだとおもった。また、体験型イベントとしてダン



スパーティーがあったのはおもしろかった。みんなで音楽をかけて踊るのも普段なかなかできない体験なので参加してよかったと感じている。

- スポーツができる空間も充実しているという点は僕らの生活に運動という選択肢をくれた。大学に入ってサークルとかを通じない限りスポーツができる機会が少なかったが、ボイジャーで暮らす一週間の間

は暇になったらバスケットコートでバスケやフットサルをしたり、ジョギングがしたかったら、早めに起きて海の風景を見ながら走るという贅沢ができたり、ジムにも様々なトレーニング器具があって、随時体を動かせるという点がよかった。また、アイススケートやロッククライミングといった本当に行こうと思わない限り体験することのないスポーツが体験できて、新鮮だった。さらに、社交ダンスが学べたり、クラブみたいな会場でみんなと踊ったりしたときは正直見ている時より楽しかった。自ら体を動かして楽しむ素晴らしさに再度気づかされた。

- 船内のアクティビティーの充実度には驚いた。単に娯楽のみに依らず乗客を退屈させない体験型のイベントは良いと思った。有限なコートを活用するためにバレー・バスケを日替わりにするなど工夫してみてもは。
- ロッククライミングやダンスパーティーは普段から試してみたいと思っていたけれど手を出せずにいたので、この際体験できてよかったです。また、比較的高齢の方が多いのでバスケットコートなどがすいていたことはよかったのですが、もっと若者が増え、スポーツやダンスを通じて、日本人はもちろん、他国からの若者とも交流ができればもっと楽しくなると思いました。
- スポーツは卓球とバスケットボールを主にやっていたのだが、普通に楽しめた。他の乗客の人と一緒にスポーツする機会にも少ないながら恵まれたり、ロッククライミングをしたりと、クルーズならではの貴重な体験をすることもできた。海風が強かったり、天気が悪かったりするとできるスポーツが室内のジムくらいに限定されてしまうので、室内スポーツももっと導入したらいいのに、とも感じた。また、一日だけアイススケートをする機会があったが、狭



いのは仕方ないとして、時間で滑る人を分けているのであれば予めそのことを伝えて欲しかったなと思わされた。

- 船の中にはジムやプールやロッククライミングなど様々な運動をすることができる場所があります。その中でも特にロッククライミングは今までやったことがなかったし、できるような場所も多くはないので特にすることが出来て良かったです。社交ダンスも先生がついて教えてくれるので、乗客の年齢層を考えてのことなのかなと思いました。
- バスケットコートはもう少し水はけをよくできる。ロッククライミングは楽しかったけれども、最後にひもで落とすのは嫌いな人もいるのでは。アイススケートは指が怖かったので手袋も配布すればいいと思いました。ジムは初めてマシンを使ったのでとても楽しめた。プールは季節的に少し寒かった。ジャグジーがお湯なのだから海水のほうも温水にできるのでは。できれば海水プールも真水のほうが良かった。
- スポーツ Activity で印象的だったのは、やはりアイススケートでした。船の中だとは思えない広いリンクを、靴などの整備がちゃんと整った環境で滑ることができたのはとても快適でした。また、ダンスパーティもとてもよい経験でした。普段地上にいるときは、ダンスを踊るようなところは敬遠されがちで、私自身も経験がなかったのですが、船内でのダンスパーティは安心して参加できたうえに、踊り方もお手本を示してもらえたので初挑戦でも心置きなく楽しむことができました。
- スポーツアクティビティの充実ぶりはさすがで、ちょっとした空き時間にはすぐにデッキへ行き、バスケットボールや卓球、パターゴルフ、プールなど 多様なコンテンツを楽しむことができた。また初めてのアイススケート体験や、絶景のロッククライミング体験など、ボージャーらしいコンテンツも非常に魅力的だった。
- プロムナードでの 70 年代ディスコやスタジオ B のグローパーティなどのイベントも大盛り上がりだった。特に日本人のシニア層はディスコ世代ということもあり、青春時代に戻ったかのように大はしゃぎされている姿が印象的だった。またダンスを通して、乗客同士が仲良くなっているケースも多く見かけた。希望する点としては、グローパーティでは、ダンサーが引き上げた後、すぐに帰る人が多かったので、数人でいいので盛り上げ役のクルーが残ってほしい。誰かにリードを取ってもらわないと盛り上がれない、というのも日本人ならではの特徴かもしれない。また、ディスコがシニア層からすると踊りにくいミュージックで、何度か訪れたが、ほとんど踊っている人を見かけなかった。せっかく踊ることが好きな乗客が多いにも関わらず、ニーズに対応した環境作りが出来ていないことは残念だ



った。70年代ミュージックやABBAなど、誰でもノリやすい音楽にして欲しかった。

- 2日目の朝は天候を心配していましたが、ジョギングの時間は幸いにも晴れて、眼下に広がる真っ青な海を眺めながら走るの最高に贅沢な時間でした。空き時間を使った卓球やバスケットなどのスポーツも、気分転換に最適な量で、非常に楽しかったです。ただ、アイススケートやクライミングなどのスポーツは長ズボン着用などの情報を乗船前に知りたかったです。もしその場でない人のために、貸し出しなどのサービスもあれば、さらに良かったように思います。5日目の夜は社交ダンスに初挑戦しました。初心者なので踊るのは無理かなと思っていたのですが、想像よりもずっと参加型のイベントで、とても楽しむことができました。ベテランの経験者の方々に混ざって、完全に私たち大学生たちは初心者でしたが、講師の方々のおかげで臆せずに参加できたと思います。同時に、社交ダンスというものは、男性のエスコート次第で踊ることができることを初めて知りました。
 - 船内で過ごしているとご飯も食べすぎてしまい、運動したいなと思うところで、運動施設も充実していてよかった。とくにフィットネスはマシンの数もたくさんあり、その上眺めもよかったため気持ちよく運動することができた。ジムやサウナのコーナーもタオルがたくさん用意されており、配慮が行き届いていると思った。
- 
- 船内のスポーツ関連の施設は、どれも充実していたと思う。特に、普段あまり体験することのないアイススケートやロッククライミングは、クルーズ船に設けるのに最適だと思った。アイススケートに関しては、手袋をはめる規定がないこと、アイスリンクが整備されないため、滑らかでないことが気になったが、それ以外では安全面において問題はないように思えた。ただ、長ズボンをはかなければいけないことを知らなかったのも、事前の書類にもっと明記してほしい。
 - クルーズ中に体験型イベントにもっと参加したかったが、結局社交ダンスとGLOWパーティーしか出られなかったのが残念だった。社交ダンスには、レクチャーに参加せずまったくの初心者のまま参加したが、上級者のエリアと初心者のエリアを分けたり、みんなで簡単なダンスをしたり、初心者でも楽しめるよう配慮してくれたのでとても良かった。スタジオBで行なった社交ダンスでは、赤井ゼミからの参加者が私と桑原さんしかいなかったのも、もっと赤井ゼミメンバーに参加してほしかった。GLOWパーティーでも、スタッフの方が前で簡単な振り付けをしてくれたので思いのほか楽しめた。ただ、普段の生活でディスコやダンスをすることがない日本人にとってはこれがないと踊れないと思う。実際、自由に踊る時間になったとたん皆帰っていった。GLOWパーティーで気になったのは、DJが流している曲のほとんどが最近の洋楽だったことだった。若い世代だとこれで

盛り上がるが、年配の方には古い曲を用意したほうが喜ばれるかもしれない。曲の年代ごとにパーティーを複数回設けてもいいかなと思った。

- 天候が悪かったこともあり、スポーツなどが思う存分楽しめなかったことが悔やまれる。雨が降っていても、プールは入ることができたり、ジムでトレーニングすることができたり、たとえ天候が悪くても、楽しめるアクティビティがたくさんあったのはよかった（ただ、大満足ではないが・・・）。ダンスには結局いくことが叶わなかったが、普段いくこともないディスコは非常に楽しかった。ただ、そこでの選曲が少し古かったので、これから若者をどんどん呼んでいくのなら、クラブミュージックであったり、そのような音楽を取り入れるべきであると思う。
- ダンスパーティーやディスコなど、普段の生活ではなかなか触れられないものに触れる機会が多くあって新鮮でした。スポーツについてもいろいろなことができ、大満足でした。体験型のイベントやスポーツアクティビティ面での充実は特に若者にとってはどれも嬉しいものだと思います。特徴のあるアクティビティ・施設を船に盛り込んでいることは、プロモーションをする際にも、注目を集めますし、強みになるのではないかなと思いました。実際自分がもしまたクルーズに乗る機会があれば、寄港地はもちろんですが、船内施設の充実度も船の選択の大きな要素の一つになると思います。個人的にはクァンタムオブザシーズのスカイダイビングがとても気に入っています。



• 船内アクティビティが多いこともボイジャー級客船の利点であり、アイススケート、プール・ジャグジー、クライミングウォール、ダンス、社交ダンス、ビンゴ大会、各スポーツ、ジム、ライブラリーなど、飽きることなく時間を過ごせるようになっている。現在の客層はお年寄りがほとんどなので、運動系のアクティビティは若者が広々と使えて良

かったと思う。プールではタオルが貸し出されており非常に便利である。外洋では強風を受けることが多いので野外アクティビティがそれに影響されてしまうのは残念である。ダンスパーティーや社交ダンスも盛り上がっており、ダンサーが会場を盛り上げていた。日本人向けの社交ダンスでは、世代を超えて人々が楽しめるようになっていて、良かった。

- 船内でここまで広い環境でスポーツができるとは思っていなかったのでスポーツの面ではとても満足できました。特に、ロッククライミング、スケート、プールには驚きました。海の上でプールに入るのは初めての経験だったのでとても新鮮でした。スケ



ートはスケート場を一般に開放する時間がもう少し多ければ、と思いました。グローパーティは大人数で楽しめました。後半は一般人がダンスを主導していたことで、前でプロが踊っている時とはまた違って身近に踊ることができました。

- 社交ダンスの先生方がとにかく面白くて、毎夜のダンス教室がとても楽しかった。ロッククライミングやスケートなど足を使うスポーツが苦手だったため、それらを満足に楽しむことはできなかった。しかし、ダンス教室、ダンスパーティ、グローパーティがあったおかげで体を動かすことができ、よい発散になった。スケートは時間がしっかり区切られていて人数制限もされていたので、みんなが公平にゆったり滑ることができていていいと思った。
- ロッククライミングやバスケットボールや卓球をすることが出来た。卓球のラケットは、濡れても使える素材でできていた。卓球台の近くの壁の上にはピン球が乗っているのも見受けられた。拡大に多くのラケットが備え付けてあったので、大人数で楽しむことが出来るようになっていた。バスケットボールのコートにもたくさんのボールがあって、卓球台が大人数で使えるようになっていたのと同様に、たくさんの方が楽しむことが出来るようになっていたと感じた。ローラースケートとパターゴルフはできなかった。機会があれば、次回はやってみたいと思う。プールには温水でかつ真水が入ったジャグジープールがあった。船室内にはシャワールームしかなかったため、最初にジャグジーに浸かった時は、とてもリラックスすることが出来た。
- 親しくなったメンバーで船内を散策していると、社交ダンスの初心者講習会が行われているデッキに到着した。講師が日本人の方で、私たち学生を快く受け入れてくださった。後日、他のデッキでも踊る機会をいただけてとても楽しませていただいた。



・スポーツの面では、地上ではなく船の上でのロッククライミングを体験するという貴重な経験を得ることができて、よかったですと思っています。体験型イベントでは、社交ダンスの先生と仲良くしていただいたおかげもあって、社交ダンスを教えていただき、少しではありますが踊れるようになってとてもうれしかったです。

・スポーツ Activity・体験型イベントは、今回のスマート・クルーズ・アカデミーで一番楽しむことができた私は、強く思います。初めてのロッククライミングでは、登れば登るほど、恐怖心を抱くとは自分では思っておらず、降りるときに、怖くて壁から手を離すことができない

かったのが恥ずかしい思い出です。また、素敵な先生のおかげで、社交ダンスを覚えることができ、そしてステージでみんなと踊ることができたことは、忘れられない思い出になりました。

- ・スポーツについては満足のいくものとなりました。バスケ、卓球、ロッククライミング、パターゴルフをメインでしましたがどれも楽しめました。そして予想をはるかに超えたのが社交ダンスでした。社交ダンスは初めてでしたがとても教えるのが上手な先生がいらっしやり毎夜が少し楽しみになっていました。

船内サービスの感想(キャビンサービス、その他船内の各部門オペレーション(ホテルオペレーションなど。))

- ・特に手続きに不具合がなく、レセプションを数回しか使わなかったため、不便は感じなかった。私が行くときはいつも丁寧に対応してくれたが、他の人の話によると、スタッフによって説明が違ったり、カードの不具合があったりとトラブルもあったようだった。



- ・部屋付のボーイさんはとても気さくな方でした。夕食を終えて部屋に戻ると、かわいいタオルアートが出迎えてくれました。また、慌ただしく部屋を出た後でも、部屋をきれいに整えてくれていました。しかし、私物に勝手に触られる不快感はありませんでした。衣服などはきれいに畳んで、わかりやすい場所にそっと置いておくなど、やりすぎない気遣いを感じ、とても気持ちよく過ごすことができました。レストランの方も、大変気さくでした。私たちの顔を覚えていてくれて、別の場所で会ったらそっと手を振ってくれました。料理の提供スピードもちょうどよく感じました。アイスクリームをオーダーしましたが、原形を留めたまま運ばれてきていました。キャプテンも非常に気さくに写真撮影に応じてくださいました。また、下船時にクルーズディレクターのファンさんが荷物の運搬を手伝ってくださいました。
- ・ベッドメイキングの時にいつもタオルアートをおいてくれていたのがちょっとした楽しみでした。カウンターの対応については、下船の際に SEAPASS CARD の支払いに問題があったためにレセプションにお世話になったのですが、とても親切な雰囲気でした。ただ全体的に日本人スタッフが少なく、高齢の乗客にとっては少なからず不安要素となっていたのではないかと思います。
- ・普通のホテルと変わらず、全く不満を感じることはなかった。全体的に人が良く、

笑顔で接してくれた。やはり、楽しそうに仕事をしてくれるとこちらも気分がいい。正直なところ、コストカットのため低賃金で雇われた人々が多いと聞いていたので、最初は盗難などを心配していたが、全くそのような心配は必要なかった。

- 船内でのサービスはどれも最高だったと思う。どの係りの人も親切に丁寧に対応してくれたので、船内で行動する上で非常に助かった。また、話している英語もわかりやすかったので、会話もスムーズにすることができた。
- キャビンサービスについては本当に自分の部屋に帰るのが楽しみな要素がいくつかあった。たとえば、部屋に帰った際に自分のルームの担当の人がタオルを使っているいろいろな動物を作ってくれたりすることだった。これのみならず、毎回会うために我々と一緒により多くのコミュニケーションを取ろうと努力している姿が見えたし、本当に最終日くらいにはルームサービスをしてくれた人と仲良くなっていた。そのため、徐々にその人に対する信頼度が上がっていくルームサービスという感じを受けたのは初めてだった。その他船内の各部門のオペレーションはみんな私自身から接したら親切に案内して下さるかたや自分自身は話しかけるつもりがなかったのに急に話しかけてきて面白いことを教えて下さる方々がいて全体的に満足的だった。
- タオルアートやエレベーター絨毯の曜日ごとの違いなどこまかなところに気配りが見られ、客を厭きさせない工夫が見て取れた。また、クルーは積極的に声掛けを行っており、カジュアル船ゆえに高級感はなかったが、その分乗客に近い目線でのもてなしがあり、ソフト面でも充実していたと思う。
- キャビンサービスはよかったです。担当の方がとてもフレンドリーで、会うたびに話をしていました。また、たびたびタオルで猿やウサギなどを作って置いていき楽しませてくれました。一度シーパスカードが通らなくなりフロントに行ったのですが、対応は迅速で丁寧でよかったです。
- 船内放送が聞き取りづらいことはかなりあったが、英語・日本語・中国語の3つを使って放送してくれたのでかなりありがたかった。翻訳には度々首を傾げさせられることもあったが、日本や台湾に合わせたクルーズになっているのかな、と感じさせられた。
- ベッドメイキングが1日1回ではなく、何回か行ってくれるので部屋とタオルがきれいな状態が保たれ、サービスの質の高さを感じました。清掃員の人もけっこう気さくに話しかけてくれて、従業員の方は全体的にとってもフレンドリーに接してくれるなど感じました。しかし、Wi-Fiが非常に高額であることは課題であると感じました。クルーズに仕事を持ち込まざるをえない人も数多くいると思いますが、その人たちの仕事は止まってしまいます。それに加え、船の中では寄港地に



関する情報が少しも教えてもらえないので、自分で調べなければなりません。そのときにインターネットが使えないことは大きな問題になります。Wi-Fi でお金をとって得られる利益より、Wi-Fi を自由に使用させて、評価を高めるほうがより多くの利益を生み出すと思います。

- 部屋の掃除は割りと適当だったが、一人あたりの受け持っている部屋数を考えると仕方ないとも思えた。ティッシュがなくなって少し困った。特に不満はなく、愛想がとても良かった。

- 部屋の清掃やベッドメイクに関してははすごく行き届いていたと思います。何か用があって部屋に来た時にすべてチェックしているのか、タオルが頻繁に交換されていたのも快適でした。ただ、部屋にいても割と積極的に部屋に係りの方が入ってきたことには少し戸惑いました。ハウスキーパーは細やかな配慮をしてくれて、タオル類も頻繁に交換してくれたことで、いつでも気持ちよく使うことが出来た。ハンガーもかなりの数を用意してあって良かった。レセプションは問題が生じた際に利用するので、常に日本人がいる方が、日本人乗客にとっては安心だと思う。全体的にクルーはフレンドリーだったと思う。



- 受付では、日本人のスタッフが常駐しており、日本語の掲示板も置かれていて、非常に良いサービスでした。しかし、台湾に着いた朝に部屋に届くはずのパスポートのコピーと新しいシーパスカードが届かず、日本人スタッフに聞いた部屋まで聞きに行くと、何の説明もなく奥から持ってきたそれらを渡されました。

- 真夜中に船内を少し歩いていたとき、クルーの方が隅々まで清掃している様子を見た。こうして過ごしやすい船内が出来上がっているのだなと思った。また、すれ違うクルーの方々は皆気さくに挨拶をしてくれ、ベッドメイキングなど、いつも同じ個所をクルーの方が担当しているため、日を重ねるに連れて顔なじみとなり親しみが持てた。船内全体の雰囲気はとてもいいと思った。ベッドメイキングをしてくれた従業員は愛想がよく、作業も早かった。だが、タオルアートを毎日作ってくれると思ったら、はじめの2日間と最終日しか作ってくれなかったのが少し寂しかった。どの部屋も同じだったのだろうか。

- 船内のオペレーションで唯一煩雑だと思ったのが、シーパスカードで現金払いを選択した人の精算だった。台湾で一旦クルーズが終わったとき、下船する前に精算を終わらせなければいけなかったが、レセプションに長蛇の列ができており、なかなか進まなかった。また、台湾での下船の際、他大の方は、精算を終わらせたはずなのにカードを通すと終わっていないと表示され、下船できないというトラブルに見舞われていた。他にも、台湾下船の際、新しいシーパスカードとパスポートのコピーが部屋に届くはずだったのに、私の部屋には届かず、イミグレー

ジョンセンターまで取りに行かなければいけなかった。このようにシーパスカードのシステムが正しく機能していないが多かったので、改善してほしいと思う。

- ・クルーの対応はすごく良かったと思う。ベッドメイキングもきれいに行ってくれたし、いろんな動物がみることができた(笑)。また、どのクルーに場所を聞いても、わかりやすく教えてもらえ、よいなと思った。ハウスキーパーの方はとても気さくで話しやすい方で、ちょっとした会話も挨拶もいつも笑顔で、とても気分よく1週間過ごせました。タオルア



- ートなどのサービスもちょっとしたことだけれど、うれしかったですし、とても印象に残っています。日本語対応のフロントもありましたし、船内サービスで不便さや不満を感じることはほとんどありませんでした。
- ・部屋の掃除担当がいつも同じ人であることは、クルーズならではの思い出だろう。旅行中に顔なじみの人ができることは旅の醍醐味につながるだろうし、次のクルーズにも良い影響になると感じた。部屋は概ね綺麗に保たれていた。バスルームに関しては、シャンプーの質が悪いので日本人向けにサービス提供するなら、もう少し良質のシャンプーにするか、いっそシャンプーを置かないなどの措置を取るべきだろう。日本人にきれい好きが多いのは事実であろうから、泡立たないシャンプーを置いているだけでは満足度につながらない。テレビはアジア人が見るような番組はあまり放送されていない。内線電話は便利だが、スマホが普及した今は船内の電波があればもっと便利であろう。
- ・現金をチャージしたシーパスカードの扱いについて間違った案内をされました(英語スタッフ日本語スタッフ共に)。台湾入国の際に一度すべてお金を出さなければならず、ゲストリレーションに戻ることにになり手間と時間がかかりました。台湾上陸の時にかなりゲストリレーションが混んでおり、一人ひとりさばくことにも時間がかかっていたため、上陸の前にきちんとスタッフで正しい情報を共有しておくべきだと思いました。また、夜にドライヤーが壊れて使えなくなったのでゲストリレーションで交換をお願いしましたが、部屋まで届けにくるまでに40分ほどかかり、イレギュラーな時の対応がかなり遅いと思いました。
- ・私たちの部屋は内側だったからか、ルームメイクの人の気分が乗らなかったからか、他の部屋よりタオルアートの回数が少なくて残念だった。廊下ですれ違う時には、英語だったり日本語だったりを使って挨拶してくれて感じよかった。海外はもう少しテキトウなのかなと思っていたけれど、予想に反してきちんと掃除し整えてくれていたため、日本のホテルと変わらないと思った。船内放送は基本英語だったが、内容によっては日本語や中国語で放送してくれていたのが分かり易く、有事の際の安全面にも良いと感じた。

- ・ルームサービスに関しては、以前から聞いていたタオルアートが二日に一回くらいのペースで部屋に造られていた。シーツは毎日替えられているわけではなかった。昼と夜に二回ベッドメイキングや清掃に訪れてくれていた。
- ・5デッキにあるゲストリレーションでは、非常に丁寧な対応をして頂けた。混雑する時間帯は、受付の方を増やすなどの工夫があればより良かったとも感じた。また、シーパスカードについて誤った案内がなされるなど、困ることもあったが、自分自身で事前に知っておくことの大切さなどわかることが出来たので、それはそれでいい経験になったのだと思う。
- ・キャビンサービスは利用しなかったのですが、特に感想などはありませんが、ルームサービスをしてくれたスタッフさんのサービスがとてもよかったです。毎日、タオルを動物の形にアレンジしてくれて、それも一つの楽しみだったのでうれしかったです。
- ・キャビンサービスは、よかったですと思いました。部屋に帰るといつも、何かしらの動物をタオルで作ってくれていたのは、嬉しかったです。掃除に来てくれるスタッフの中には、仲良く話しかけてくれる人もいれば、あいさつすらしてくれない人もいて、差があることに驚きました。各部門のオペレーションの人も、トラブルが発生したときに、すぐ駆けつけてきてくれた時は、助かりました。

船内サービスの感想 (SHOW, エンターテイメント)

- ・一番初めに見たアイススケートショーが一番印象的だった。スケートをやっていた外人の身長が高くてハンサムな男の人がただただカッコよかった。僕自身アイススケートショーをみるのは初めてで、トリプルアクセルのようなジャンプを初めて見た時には鳥肌が立つほど見入ってしまった。プロは違うと思った。
- ・船が一流の豪華客船であることは知っていたが、ショーもそれに勝るとも劣らないほど一流のものだった。また、今までスケートやフィギアスケートなどにそこまで興味を感じていなかったが、今回初めてプロのスケートを見たことで、かなりスケートに魅力を感じるようになった。
- ・夜のショーは、前回と同じ内容のものもあると聞いていたため、トータルで4度ほどしか観に行かなかった。ツアー最終日の夜にスタッフが舞台上にあがってお礼を言う演出はとても良かった。ショーでの日本語の通訳さんがとても分かりや



すかった。

- ・ショーは迫力があってとても魅力的でした。しかし、前回と同じ演目が多かったことが残念でした。TV で毎朝放映していたモーニングショーは必要な情報がまとめられており、非常に分かりやすかったです。また、夕方以降は日本のタレント（名前は失念してしまいましたが、中年の男性です）が、クルーズ船に実際に乗ってアクティビティなどを体験してレポートする番組や、カリブ海クルーズの様子をまとめた番組が放映されていました。これを見て、「次はあの船に乗りたい」、「次はカリブ海クルーズに出かけてみたい」と思う方もきっといるのだろうなと思いました。私はほとんど毎晩チェックしていました。もっと番組のバリエーションがあればよりよかったですと思います。船内をぶらぶらしていると歌や楽器の演奏が絶えず聞こえてきて、とてもリラックスできました。日本発着クルーズだったためか、「涙そうそう」など日本の歌にこだわっていたように感じました。しかし、残念ながらシンガーさんが外国の方だったため、訛りがきつく、歌詞が聞き取れないこともありました。日本の歌にこだわらず、世界各国のいろいろな歌を歌えばよいのにな、と思って聞いていました。
- ・毎晩行われるショーは、豪華な夜の代名詞のように思われ、とても刺激的で楽しかったです。特に好きだったのは、ミュージカル風の歌のパフォーマンスと、ピアノのショーでした。観客が日本人と中国語圏のひと、英語圏の人と様々なために、司会者やピアニストの方が三つの言葉を巧みに操ってショーを作っているのがとても印象的でした。
- ・部屋がプロムナード側に位置していたのもあり、部屋からショーをみたこともとても印象的でした。プロムナードでショーが始まると、シアターで座って試しているのとは違って、乗客がノリノリで参加していくのでとても楽しい雰囲気、ここでしか味わえないものだと感じました。
- ・とても充実していた。ジャンルの異なるショーやエンターテイメントが行われていたので、毎度違う楽しみがあった。内容自体は面白かったが、アナウンスメントが不十分な感じがした。乗船前に気になっていたショーを見逃してしまった、ということも起こりうると思う。
- ・正直船内のレストランやカフェなどの様々なサービスにも驚かされていたが、なかでもSHOWの質の高さには最も驚かされた。個人的にSHOWというのはクルーズにおいて付加的要素であり、クルーズ業者においても船内のSHOWの質を高めるとそのコスト自体が高くなるため、普通くらいのSHOWかなと思っていたが、アイスショーやミュージカルは想像を絶するものであり、見ている間感動し続けていた。あえて文句を言うのだったら、一つ一つのショーの時間を延長してほしいことである。約50分のショーが短すぎてもっとやってほしいという



気持ちでいっぱいだった。個人的な収穫を言えば、今回でいろいろなミュージカルを見てみたいというミュージカルに関する興味が湧いたということである。

- スケートやピアノ、歌劇など初めて一流のエンターテイメントにふれ、世界が広がったと思う。言語の壁を越えて楽しめるものなので更に磨きをかけて楽しませてくれることを望む。ひとつ言うとすれば、英語での笑いを日本語に訳すときにもう少し工夫して欲しい。英語だと面白いようなセリフも日本語訳だと減衰していた。
- 素晴らしかったです。無料のショーということであまり期待はしていなかったのですが、エンターテイナーや演出はレベルが高くとても満足でした。これらのショーを毎日観ることができるのが、このクルーズで一番よかったことといっても過言ではありません。
- Show は行き（神戸→台湾）だけ毎日見ていたのだが、バリエーション豊富で飽きることがなかった。言語が必要なかったり、日本語や中国語が話せる人がショーを行っていたりしていたので、言語の壁を感じることなく楽しめた。ただ、翻訳の都合上冗長になっている部分があったので、そこは改善できるのではないかと感じた。
- ミュージカル系のショーやアイスショーを見るのは初めてだったのですが、どのショーも最初から最後までレベルが高く、初めてこのようなショーを見る自分は圧倒されっぱなしでした。しかも、そのようなショーが毎日開催されているので、毎日の夕食のあとの楽しみでした。キャラクターパレードやライブで歌っている人たちも自分のよく知っているキャラクターが出てきたり、ジブリなど知っている歌を歌っていたり、日本人受けするようにきちんと考えられていました。



- ミュージックインピクチャーはとても迫力があり凝っていて、楽しめた。展開が多く少しせわしない感じがしたものの、オーケストラが楽しませてくれた。マジスティックは最初のオーケストラの演奏は楽しかったが、その後の延々と続く曲芸は少し時間が長すぎて退屈してしまった。パレードに関しては音が大きすぎる。じっと見ていて楽しいものではなかった。ピアノコンサートは、ピアノの調子が悪かったのと、音響が最悪だった。リハーサルもしているはずなのでも改善できるはず。

- SHOW に関してはどれもクオリティーが高く、特にアイス SHOW は、船の上であることを忘れてしまいました。全日程中に同じ SHOW

を二回ずつやってくれるのも、SHOW を毎日チェックしなくてもいいので夜の過ごし方にバリエーションがあり、ありがたかったです。ただ、映画に関しては、日本語の字幕がないので、不便でした。

- アメリカの船らしく、劇場公演のクオリティの高さは素晴らしかった。特にブロードウェイスタイルのショーは圧巻の歌唱力、ダンス力で、よく舞台を観に行く身にも鳥肌モノであった。アイススケートショーも生で観る機会は初めてで、またリンクとの距離が近いことで興奮もひとしおだった。ただ、ショーが始まるまでショー内容が全く分からず、特にタイトルの英語だけを見ても内容を連想しにくい日本人も多いだろうから、コンパスに簡単な内容表記をする、写真を掲載するなどして欲しい。さらに、ショー後の予定を考える上でも、上演時間の目安を書いておいて欲しい。また、英語・北京語を話す司会が話す内容を、日本語司会が翻訳する際、その翻訳があまりにも悪い。せつかく英語で面白い司会をしていても、翻訳が正しくされていないことで、英語を理解しない日本人にはその面白さが全く伝わっていない状況だった。

- 2日目の夜の SHOW では最前列に座ることができて、ダイナミックな舞台を一番近くで楽しむことができました。歌や踊りもさることながら、オーケストラピットが完備されていてすべて生演奏で行っていることに驚きました。マイクを使っているとはいえ、たった9人であれだけの SHOW に合わせて演奏できるのがかっこよかったです。目の前で演奏している姿を見ることができて大興奮でした。4日目の夜の SHOW ではロープを使った大迫力の演技を見ることができました。この SHOW



は台湾乗船の主に台湾人のお客さんたちのウェルカムパーティーを兼ねていたらしく、歓声や司会者の方へのレスポンスが積極的で2日目の SHOW とは全く雰囲気の違いがありました。夜にプロムナードで行われていたパレードは贅沢にも自室から鑑賞しました。規模は小さくてもみんなが楽しんでいる様子が伝わり、とても和やかなパレードだったように思います。ただひとつだけ、旗を持って行進しているキャストやほかにも2、3人、シアターで観た SHOW で楽器を演奏していたオケピの人に酷似していました。きっと同一人物ですが、見当たらなかったあの人たちはきっとシュレックやカンフーパンダの中なんだろうな・・・と思って見ていました。エンターテインメントのスタッフの数は船室の数やいろんな制約によって限られてしまうはずなので、皆が色々な仕事をうまく回している様子が伝わってきました。

- 実際に同じショーをリピートして見たように、もう一度見たい！と思えるようなものばかりで感動した。また、前の席に座るとパフォーマーとの距離も近く、より楽しめた。船内でみたショーなどは、日常ではたぶんわざわざ見に行こうとしないと思う。（値段的な意味も含め）しかし、こんなにも楽しいものなのかと気

づくことが出来、もっといろいろなものを鑑賞して感性を磨きたいと思った。また、みんなが通るプロムナードもときに一時的にパフォーマンスのスペースになっているときもあり、より人がいるスペースを利用して且つ飽きさせない工夫だなと思った。

- クルーズ中、私が鑑賞したショーは、MUSIC IN PICTURES、Majestic!、ピアノ演奏者のショー、アイススケートショーである。どのショーでも思ったことは、演奏バンドにしても歌手にしてもダンサーにしても、出演者の技術力が高いということだった。その中でも、もともと歌を聞くのが好きなこともあり、MUSIC IN PICTURES が一番良かったと感じた。だがその一方で、どのショーもストーリー性や関連性はあまりなく、演出に関しては物足りなさを感じた。一番気になったのは、MUSIC IN PICTURES のエンディングが、インドの曲だったことである。インドの曲は、観客を飽きさせないため、ショーの中盤に持ってくるのが妥当だと思った。最後はもっと王道な曲で終わってほしかった。アイススケートショーも、ストーリーに沿った演出に関しては微妙だった。ほとんどのショーは存分に楽しむことが出来たがMajesticだけは中弛みしているように感じた。
- 船内でのショーは船内であることを忘れさせるほど熱狂できるものだった。特に、アイススケートショーは、まさか船の上で?!ということもあり、非常に楽しめた。船の代金に含まれているのも、いろいろと気兼ねしなくてよくなるので、よいと思う。無料で毎晩あれだけのクオリティのショーが見られるのは本当に素晴らしいと感じました。自分が興味のなかったジャンルのショーも見ることになって、クルーズが終わってからもそういったショーを見に行きたいと感じましたし、同じように感じて実際に行く人も少なくないのではないかと思います。様々な種類のショーがありましたが、自分の出演するショーがない日に、キャストの人たちはなにをしているのだろう、ということが少し気になりました。
- エンターテインメントとしては、日々開かれているショーやパレードがある。ステージでのダンスショー、ミュージックショー、サーカス、アイススケートショー、映画など、どれも素晴らしく、楽しむことができた。座席が足りず立ち見になる、ということもない。これは同一のショーを航海中に数回やっているおかげであり、これは客の分散にもなり、有効だといえる。
- どのショーもMCは英語、日本語、中国語の3言語で行われており、これは検討の末にこのようになったのだろうと思うが、同じ内容を3回も繰り返すのはかなり飽きる。なるべくMCを短くして観客がだれてしまうのを防ぐべきである。
- 間近で見るSHOWは想像以上に迫力があり、とても満足しました。追加料金がかからないのが本当に驚きでした。特にシアターでは音楽やダンスを間近で見ること



ができたため感動しました。前列で見たので迫力をより感じることができました。プロムナードでの SHOW はシュレックやカンフーパンダなどキャラクターとも触れ合うことができ楽しむことができました。ただ SHOW の間、道が封鎖されることは少し不便だと思いました。

- SHOW はどれも華やかで素晴らしいものばかりだった。日本人客より海外の客の方のテンションが高く感じたのは、やはり国民性だなと思った。SHOW やエンターテインメントは言語が違って楽しめるからいいなと思った。下船してからも暫く奇声を発する癖が抜けなくて大変だった。
- 目を奪われるようなショーに、とても感動した。ショーに出てくる人と船内で会えることも多く、新鮮であった。5デッキで行われたパレードはとても楽しく、身近なものに感じた。
- SHOW はやエンターテインメントでは、本物の歌手が歌っているのとても迫力があつたし、とても楽しかったです。SHOW で出演していたシンガーさんたちは、聞いていてとても楽しかったです。蒸気サウナで一緒になった時、どうやったら歌が上手くなるか等、教えて頂きうれしかったです。しかし、ダンサーさんは、ダンスの上手さに差があつたと思います。日本のテーマパークやステージとは違って、体型は関係ないのだと私は思いました。また、多くあるショーを少人数のエンターテイナーの方々が、マルチで活躍していることも気付き、船上でステージに出演するということは大変なのだ と強く感じました。
- SHOW、エンターテインメントでは一つ要望があります。それはもっと日本人も知っているような有名な曲で色々と show を行ってほしいと思ひました。僕は割と洋楽を聞く方ですがあまり知っている曲が無くそこまでの感動が生まれなかつたというのが本音としてあります。5階での近い距離でのパフォーマンスはとても楽しむことができました。



スマートクルーズアカデミー

1日目 「アジア経済と日本の役割」

<報告内容>

「アジアにおける外交問題」 星野俊也(大阪大学教授)

「アジアの少子化動向と経済成長論から考える今後のアジア経済」
橋本浩幸(兵庫県立大学准教授)

「TPP と農業政策」 倉本宜史(甲南大学講師)

「アジアを意識した日本のインフラ経営改革-空港-」
黒石匡昭(新日本パブリックアフェアーズ株式会社 取締役 インフラフォーラムサポーター)

「アジアにおける、日本の地域と自治体の役割」 齊藤由里恵(徳山大学准教授)

・ 色々な研究分野の先生方のお話が聞けて良かった。ただ、時間が少し長かったのもで学生の皆さんは少し疲れ気味だったようだ。全員が集まる時間が少し遅かったのが気になったので、アカデミーは時間厳守を徹底した方が良いと思う。また、質疑応答の時間をもう少し余裕をもって取るなどした方が良いと感じた。終日航海日にまとめてアカデミーをやる今の形が最も効率的だと思うが、もう少し時間を増やした方が、より充実した研修になると思う。

・ 普段聞くことのない分野のお話を伺うことができ、非常に勉強になりました。自分の関心分野とはずいぶん違った分野だったので、すごく新鮮でした。個人的には、机があったほうが、話を聞きながらメモを取りやすかったと思いました。しかし、参加者も多く、会場の広さも限られていたので仕方がないとは思いますが。



・ 船の上で、他大学も含めた教授の講義を聞くことができたのは新鮮でした。

・ 星野先生のお話は、理想論のように感じられた。東アジアの協力についての議論のとき、よくヨーロッパ連合が引き合いに出される。たしかに、EU は対立を乗り越えて協力体制を築いたと言える。しかし、今の東アジアはEU とは比べ物にならないくらい国によって国力、経済力が違う。日本、韓国、シンガポールのような先進国もあれば、中国、インドネシアのように発展著しい国も存在し、ミャンマーやラオスのように貧困に苦しむ国も存在する。特に、急成長を続けてきた中国

が発言力を強めつつある中、協力体制を作るのは難しそうである。ただ、ヨーロッパにない特徴として、東アジア諸国は海を強みとすることができるとも感じた。東アジア諸国には海洋国家が数々存在するため、海を通した貿易による相互発展をめざす、という方向性も十二分に取りうると思う。

- 橋本先生のお話を聞いて感じたのは、多少遠回りな議論かもしれないが、教育の充実の重要性だ。今後人口ボーナスに苦しむことになる日本は労働者の質で勝負するしかないように思う。よく「日本は労働生産性が低い」といわれるが、この時の議論の焦点は主に使用者側にある。しかし、私はあえて、労働者側にこだわって議論したい。というのも、今後ますます機械化が進む世界の中で、単純労働などの作業は機械にとって代わられると思われるからだ。単純労働しかできない労働者が働く場所を失うと、それは社会の負担になる。その意味で、教育の力で労働者の質を上げ、その労働者が機械ではできないことを行う形態を目指すべきであると考え。日本の高い技術は質の高い労働者によって支えられていることを考えても、労働者の質の向上は日本の成長にとって重要であると言える。「農業を守る前に農家が自然消滅してしまう」という倉本先生の議論には納得した。確かに、農業はこれまで国の力によってなんとか生き延びている、と言っても過言ではない。極論を言えば、そもそも、農業をそこまでして保護する必要があるのだろうか、と思うようになった。「農業を守っている」といえば聞こえはいいが、言い換えれば我々庶民は「高いものを買わされている」ともとれる。自給率の問題もあるが、天然資源とは違い、農作物はいざとなれば農地を作って自己供給が可能だ。もちろん、TPPによるデフレの問題もあるが、私は農業の衰退は自然な流れのように感じる。仮にTPPが実現したとしても、日本の農産物は一定の需要があるだろう。講演でもあったように「安全で高品質」をうりに、輸出促進は可能であると考え。黒石さんのお話は主にインフラの話であったが、更新を意識して投資するとなると必然的に慎重にならざるを得ない。そうすると、今本当に必要な地域に将来性の不安という要因でインフラ投資が行き届かないこともありうるわけで、そのあたりの兼ね合いが数字で測れない部分もあり、難しい。非常に率直にお話ししてくださり、なかなか知ることのできないような情報なども満載で有意義であった。最後に、斎藤先生の自治体とアジア諸国の関係だが、先生が紹介された北九州モデルに関しては、公害を克服した都市としてのノウハウを生かした面がある。このように地域の強みは地域それぞれであるから、インフラだけでなく、その他技術の輸出も可能であると感じた。
- アジア経済についてはもともと興味を持っていたので、様々な視点から話を聞くことができ非常に勉強になった。特に橋本先生の人口ボーナス論の考えが印象



的で、普段ゼミではあまり聞く機会のない開発経済学の勉強もできたのでいい経験になり、興味のある分野の知識も増えたのでよかった。最も私が興味深かったのは、星野先生の東アジアの政治的状況に関する講義である。なぜなら、私自身東アジアが今後解決すべき課題が多く、地理的に近い東アジア諸国はお互いの様々な政治的問題を相互に解決し協力すべきだと考えるからである。特に、EUを見た限り、国境を超えた枠組みの構築によって得られる経済的効果は東アジアでもより大きくみられると考えたため、今後協力が推進されてほしいと考える。橋本先生の講義分野も新鮮だった。人口が減少することによって一時的に経済が活性化するという理論を初めて聞いて講義中混乱はしたが面白かった。倉本先生のTPPに関する講義も農業に関する関税を撤廃することでどういうことが起きるのかを改めて分かり非常に意味のあったものであると考える。人口ボーナス論はとても興味深かった。低所得で多産多死の貧困国に応用できれば短期的には一石二鳥の効果があると思った。また、一般的な解釈の因果関係を逆にした理論も存在しているということに驚いた。どのお話也非常に面白かったのですが、一番興味をひかれたのは黒石さんと上村さん（別日のアカデミーですが）のプレゼンです。実際にその現場で仕事をされている方のお話は、きちっとしたビジョンが伝わってきて、新たな知識と視点を得られるという点でとても勉強になりました。アジア経済の中で日本が何をできるか、というテーマの中で様々な先生や、専門分野の方の話聞いたのはかなり参考になった。特に星野先生が世界地図を傾けて、他国から見た日本の位置を示していたが、そういう視点を持つことも大切になるだろうと感じた。

- 普段は聞くことのできない人から貴重な話を聞くことができた。黒石さんのお話でPFIが実際にきちんと行われれば成果を出すことができるというお話には勇気を頂いた。倉本先生のお話で、農業を保護すべきか、という普段当たり前だと考えていることについて、根っこからほじくり返すことも重要であると再確認した場だった。



- 普段のゼミでは日本国内のことばかり考えているので、他国と日本という視点はとても新鮮でした。しかし、普段なら日本という一つの国のことを考えていれば十分ですが、他の国というアクターがいることで、複数のアクターの利害に気を回しながら、彼らにとって良いこととはという見方で物事を考えるのは難しかったです。そんな中で、星野先生のお話の中に、「EUがユーロを作るとき、経済の強い国は不利益を背負うリスクと自国の通貨を共通通貨にすることで得るまだ見ぬ利益の間でジレンマがあった。でも、自分の国がさらに上の次元に行くにはどちらが良いのかを真剣に考えたのだ。」というようなお話がありました。確かに協力には不利益が付きものであり、日本では不利益ばかりが声高に叫ばれるこ

ともありますが、自分の国一国では 行くことができない次元まで発展するには、周辺国との協力というのは考えていかなければいけないことだと思いました。

- 普段日本国内の政策研究をしている私にとって、「アジア」というマクロな目線で日本の役割を考える機会は貴重であり、有意義な内容になった。星野先生の地図を使って俯瞰するように日本の外交を見るという講義は非常に面白かった。斎藤先生の講義では、地方公共団体も国際化が求められている中で、地方団体がインフラ輸出のバックアップをするというアイデアは非常に有益であると感じたし、国の視点で考えることが多い私には斬新だった。星野先生や倉本先生の、アジアとの関係性をテーマにしたお話を聞きました。普段星野先生のお話を伺える機会がめったになく、外交問題に関する話題もゼミではあまり出ないので、新鮮で非常に興味深かったです。星野先生のお話の中で、地図を色んな角度からみるというものがありませんでした。実際にスライドで見ると、世界の位置関係や、日本の姿が大きく違って見え、自分がかつともっていた世界全体の姿、日本の存在についての観念が大きく揺さぶられました。韓国からみて、日本は海を直進するのを遮るように位置しており、なんて迷惑な立地なのだろう、と感じました。こういった見方があることを知って、日本とある国の二国間の関係について考えるときに、本当にその国の立場にたって考えるときに活用できそうだと思います。また、橋本先生の人口ボーナス論も、普段の授業ではなかなか聞けないような経済の話で面白く、聞き入ってしまいました。はじめはスッと理解できなかった生産年齢人口や、高齢者の割合などの理論も、先生の説明をきくことで最終的に理解することができた。
- クルーズ・アカデミーで特に興味深かった発表は、橋本先生の人口ボーナス論だった。もともと少子高齢化の問題について多少関心があったので、人口ボーナス期が過渡期であり、それが終わることを見越した政策が必要だという話はとてもおもしろかった。今回、クルーズでの勉強会だったため、テーマがアジアに絡んだものだったが、普段国際的な分野の研究をしていない先生が多いため、アジアを絡めるのに苦心されている様子も感じられた。
- スマート・クルーズ・アカデミーでは教授の方々のアジアについてのお話を聞くことができ、良い機会であった。星野先生は学部生ではお話をする機会もないほど、忙しくされているので、東アジアのお話を頂戴できたのは、貴重な経験だと思った。また、人口ボーナス論や、農業のお話もとてもおもしろいものであった。様々な先生方のお話を聞くことができ、興味深かったです。特に印象に残っているのは星野先生がおっしゃっていた、地図を別の角度から見るという国際関係の見方です。どうしても日本中心の世界地図に見慣れていて、中国やロシアの側から日本を見たときの国同士の位置関係や資源の場所の見え方の違いに驚きました。



難しい考え方の紹介等ではなく、ほんのちょっとした地図の見方の変化によって国同士の関係を新しい観点で見ることができ、とても新鮮でした。橋本先生の人口ボーナス論のお話も、全く初めて聞く話で、興味がわきました。先生方と船の中で様々なお話ができたことも、今回のクルーズでとても楽しかったですし、ためになったと思う点です。星野先生のお話では、地図をいつもとは異なる角度から見ることで、ものごとのとらえ方を変えることができると感じられた。日本海は東アジアの内海であり、東アジアのコミュニティ形成を将来的に目指すことの意義を感じた。ただ現状としては、まだ競争関係にあり、時間がかかりそうな問題ではある。

- 橋本先生は、出生率の低下に関連して、人口ボーナス論を説明してくださいました。初めて耳にする言葉だったが、少子化や人口増加がどのように経済発展、貧困の悪循環につながっているかが、少し理解できた。倉本先生には、農業の観点から見たTPPについてお話しいただいた。TPPを結ぶ結ばないにかかわらず、日本の農業は自然消滅するというので、危機感をもって取り組まねばならないと気付いた。農業の将来のあるべき姿は何なのか、これについて少し考えることができた。石黒さんには、空港の経営改革について話していただいた。日本の情報公開の少なさが異常であることがわかり、官民ともに、責任感をもって経営することの重要性と、その実現のしにくさについて、理解することができた。齋藤先生は、海外進出のために自治体ができることについて説明してくださいました。自治体が架け橋となることの重要性と、また自治体の管理の至らなきの両面を考えることができた。日本が抱えている社会問題は世界のなかでも最も先端を走っているのだから、後に続く国にみならしてもらえるような政策を実施しなければならない。
- 様々な切り口から見たアジアと日本の関係についての講義をお聞きしました。星野先生の「東アジアにおける外交問題」のお話の中で『海でつながる東アジア』というキーワードがありましたが、大陸国家・海洋国家というくくりを意識して世界を見ることはなかったので、特に新鮮に感じました。それぞれの国が協力し合うということは、海洋国家という強みを活かして今後の東アジアの経済を進展させていくために不可欠であると思いました。自国の利益より全体の利益を優先することや政治的な協力をしていくことは今まで重視したことはありませんでしたが、俯瞰的に世界の経済を見るとより重要になる考えだと思いました。普段聴くことのできない他大学の先生方、実際社会で活躍されている方々のお話を聴けることは大変貴重な経験だった。他の多数のために自分の不利益を我慢するという話が印象的だった。どこまでを我慢するのか、またそれが本当に全体に



利益があることなのか、全体とはどこなのか、利益とは何なのか、色々と見極めなければいけないことは多く、非常に難しいことだと思う。

- ・今までは少し距離の遠い話であるような気がしていたけれど、あの場所で話している人たちの中には実際に関わっている人、いつか関わっていく人がいるのかと思うと不思議な感じがした。普段聞くことが出来ない、貴重なお話を聞けるいい機会であったと思う。各大学の教授のお話だけでなく、黒石さんや上村社長といった、大学の教授以外の方々のお話も聞くことができ、良かったと思う。
- ・今回、事前に体調を整えておくことの大切さや、事前に講義内容に関して、ある程度の知識を得てから講義に挑むことの大切さを、改めて実感した。外交問題で、日本が抱える問題や空港のお話を聞くことができたのは、自分にとってとても価値のあるものだったと思います。特に、「壁を超える勇気」—政府、制度、インフラ、心のあり方の見直しのお話がとても興味深かったです。このお話のおかげで、外交問題に関心を持つことができたと思います。また、倉本先生がお話してくださった「TPPと農業政策」のお話も興味を惹かれました。TPP交渉のことは具体的には知らなかったのでもって新鮮で、21分野で交渉されているということにとっても驚きでした。このお話のおかげで、農業のあり方、立ち位置について真剣に考えることができました。
- ・星野先生の話が私は印象的でした。海でつながる東アジア、東アジアの自然経済圏形成の意義など興味深い話がありましたが、特に壁を超える勇気について話されているときが良かったと思います。いかに武力を使わないで、各国と競争していくか、それが今後の世界、東アジアにおいて重要だと私も思います。そして、橋本先生がお話をしていただいた人口ボーナス論も興味深い話でした。
- ・色々な方がお話し下さってとても勉強になりました。事前勉強でインフラの事を少し調べて望んでいたのですがそれについての深堀があまり出来なかったのが残念でした。一番興味深いものは橋本先生のお話でした。単純に人口ボーナスというのが初めて聞いた言葉であったので興味を持ったという理由でしたがこのような考えのアプローチの仕方が面白く感じました。



学生グループワークへ ー班を作り、与えられた課題に応えるー
<課題：日本と中国・韓国・台湾・東アジア諸国の協力について>

- ・今後のクルーズ・アカデミーで、異なる学問領域に所属する学生が広く参加することを期待すると、事前学習および事前交流がもっと必要だと思われる。仕方ないことかもしれないが、阪大生の人数が多くなってしまうと、どうしても他の

参加者（自治体の方など）が阪大生にばかり気を使ってしまい、他大生が萎縮、遠慮してしまっているように感じた。

- ・日本と中国・韓国・台湾・東アジア諸国の協力について話し合いました。兵庫県立・甲南大学の方も交えてお話しできる機会となりました。話し合う中で、メンバーの知識の豊富さに圧倒されました。日常的に関



心を持って、新聞等からしっかり知識を入れている感じがして、自分の知識の浅さが恥ずかしくなりました。これから、一年間政策提言の論文を書いていくのに日本や近隣諸国の現状、特性すら知らないのは話にならないので、ちゃんと勉強しようという学習意欲を掻き立てられました。

- ・中国や韓国については外交関係についてよく論じられていますが、台湾と日本が協力することでアジアにとってどう貢献できるのかは自分の中では初めて考えたので、その意味でも面白かったです。



・台湾との関係の議論が難しかった。学年に関係なく意見をどんどん出し合い、人の意見もよく聞いてくれるメンバーであったので、議論が活発にできたと感じた。

・インターネットが使えない環境、というのがよかったように思う。普段の環境下にあると、どうしてもウェブ上の情報に頼りがちになってしまう。そうではなく、現実的にどう

かは別として、自分たちの素直なアイデアを出せたのが面白かった。

- ・今回のグループワークは他大学の学生も巻き込んでの企画だったので、かなり新鮮な気持ちだった。というのも、阪大の立地上、近くに他大学がなく、普通に生活しているだけでは阪大の学生にしか会わないからだ。そのため、今回のように他大学の学生と触れ合うことで刺激にもなったし、阪大の学生とは違う視点の意見が聞けたので、いろいろな意味で非常に勉強になった。テーマとしては、日本とアジア諸国の協力ということで、ゼミで勉強している日本の政策とは少し違う観点の勉強だったので、刺激的でやっけておもしろかった。最後の意見の講評の際には、他の班の意見も知ることができて、一つの問題をさまざまな方向から見ることができて、その問題の理解が深まった。
- ・情報が遮断されたクルーズ船で論理的思考だけを持って考えることがいかに難しいか痛感することができた。グループのメンバーが既存に持っていた情報だけで、今後あるべき東アジア諸国の関係性を具体化させていくというのは難しかった。自分たちの中で議論を交えながら、自分たちの中で矛盾に出会い、それをどういう風に克服していくかを考える過程はおもしろかった。何より、東アジア諸国間

の関係性の重要性については気づいていたが、それをどうやったら柔軟性を備えた体制になるのかを経済、政治、法という三つの側面をすべて考慮しながら作っていくというのは困難なものだと感じた。意外と国家同士は地理的には近くても今後解決していくべき課題が多いことから、逆に今のEUを主導している国といえるフランスとドイツがいかにかすごいか再考させられた。なぜなら、今回のグループワークを通じて、リーダーとなる国というのはある一定の自国の利益を放棄しなければならないと考えたため、リーダー国がどうあるべきかも考えるいいきっかけだった。



・各々の論の至らぬ部分を、グループワークを通して洗練させていく過程を見、議論の重要性を知った。また、急遽割り振られた班で難題に取り組むことは、部署横断的なプロジェクトなど今後の人生においても機会として存在しそうなので、有益な経験になったと思う。

・テーマが少し抽象的で話し合うときに意図をくみ取るのに苦勞をしました。そのため話し合いや提案がふわふわしたものになってしまった気がします。また、ほかの大学の方との親交を深めたかったので、赤井ゼミだけの班だったのも少し残念でした。ですが、このような形でのグループワークは新鮮でとても楽しかったです。

・全体的に時間が少ない印象で、最終的に出した班の意見も正直納得のいかないものになったのが残念だった。全体を通して、多かった意見がアジア全体となった共同体の作成であったが、実際共同体をつくれれば本当にアジアが成長に向かうのだろうか、という点の疑問が最後まで消えず、共同体にたいするまとまった意見を出せなかったのが心残りであった。難しいテーマでとっつきにくい内容でしたが、班の人達と意見交換して取り組むことが出来ました。ですが、時間が少なく、インターネットも使えず、リサーチが出来なかったので有意義な議論ができたかどうかは疑問です。

・情報と知識の不足とテーマの難しさが重なり、なかなかよいアイデアが出ず苦勞した。普段から知識を収集することの大切さを痛感した。なにか問題を考えるときには一つ一つの言葉を定義しながら慎重に議論を進めなければならないとも感じ、グループディスカッションの難しさを再確認した。私の班は赤井ゼミだけだったので他の大学の方と交流できなくて残念だった。OSIPPの院生のお二人にも意見を伺ってみたかった。



・大学も違う、今回初めて会った人と、かなりざっくりしたテーマについて十分に

検索できない環境で話し合うのは過酷でした。私の普段の努力不足で基礎知識が足りず苦勞しましたが、限られた知識や情報量の中で、与えられた課題に適切な答えを出せるように論理的に物事を考えるというのは、普段の情報の量に頼った思考と違って、かなり情報の組み立て方に気を配って考えることができました。たまには論理的思考の訓練としてこのようなやり方も効果的だと思いました。

- 他の大学の学生と仲良くなるきっかけとなった。ただ、やはり赤井ゼミがマジョリティであり、いつもの赤井ゼミの雰囲気でも議論を推し進めてしまったことは反省点である。もう少し議論の時間があれば、もっと違う方法で緻密な議論ができただろうが、時間的な制約が厳しかった。「アジアの成長」という広い視点から2国間の関係を考えるという議題は非常に面白いし、議論のし甲斐のある内容ただけに、議論の時間を十分に取れないことは残念だった。学生間の交流という目的なのであれば、各ゼミの活動内容の相互紹介、インゼミのような発表会でも良かったのではないかな。

- 全員が阪大生のグループになってしまい、他大学の方と意見交換できなかったのが残念でした。ネット環境のない船の中で予備知識も薄い状態で、普段ゼミでは触れない外交問題を含むアジアとの日本の関係を考える議題の意図というのが、いま一つ学生には理解しづらかったように思います。



- せっかくの他大学の学生さんとの交流のチャンスだったが、阪大生のみグループだったのが惜しかった。短い時間ではあったが、全員のある分だけの知識を絞り出して（船上ではインターネットも使えないので）政策を考えることができた。同時に、台湾や韓国は日本の隣国であるが自分は知らない事ばかりであることを痛感した。



- グループワークのテーマが非常に難しく、2度ほどグループでミーティングを行ったりしてかなり苦勞した。難しすぎて、最後に3班の中から最良の政策を選ぶ際、どの班も苦し紛れな解答だったので消去法で選ぶしかなかった。今回は、知識を使うというよりも、自分達が持っている数少ない情報量で、論理的な政策立案をすることが目的だと聞いた。

それに対し、他のゼミ生と話していたのが、論理的に考え、筋が通った政策立案のためにはある程度の情報は必須であること、もし論理的な思考力が目的であれば、課題と一緒にある程度の基本的な情報を提供し、その情報の範囲内で政策を考えるようなやり方のほうが良いということだった。その通りだと思ったので、もし次回グループワークをするのであれば改善してほしい。

- ・今回、阪大だけではなく、他大も参加していたが、やはり、違う考え方というか他大の方の考え方を知るよい機会となった。乗りかかった船ではないですが、同じ船にいる仲間として、このような類のアクティビティーは相手のことを知るのに、効果的であると思う。
- ・短い時間の中でテーマも難しかったですし、自分自身の知識も少なく、正直とても苦戦しました。しかし時間が短かったからこそ集中した議論ができた面もありますし、限られた持ち合わせの知識を出し合って何とか意見を組み立てていくのは、楽しくもありました。議論をどのように進めていったらいいのか、意見のまとめ方、アピールの仕方など様々な点で苦労しましたが、これからの論文執筆についての議論に向けてもいい経験になったのではないかと思います。
- ・学生グループワークでは、東アジア発展のために日本が外国と協力できること、という漠然ではあるが議論し甲斐のあるテーマについて話し合った。まず、議論をするためにはメンバー各々が知識を備えていること、これは確かに条件ではあるのだが、お互いをあまり知らずには深い意見交換がしづらい、ということを感じた。今回はスケジュールがつまっていて十分に溝を埋められなかったというのが印象だ。ただ、せっかく他大のかたとクルーズに参加したので、グループワークが行えたことは有意義だと思う。
- ・ディスカッションは時間が限られていたことと学生間での知識の量の差に圧倒されてしまったこともあり、本来この課題で求められていた発想力や論理的な思考力を出し切れなかったことから不完全燃焼に思える部分もありました。普段の生活から社会的・経済的問題にどれだけ目を向けて学んでいるかという違いも感じました。しかし、お互いの意見や考えを出し合うことでとても刺激を受けました。もし再びクルーズ・アカデミーの機会を設けていただければ、学生で主体的にグループワークのアカデミーを作っていければおもしろいと思いました。
- ・阪大生や甲南大生の知識の量には本当に驚かされた。知りたいことが調べられないというもどかしさを久しぶりに感じた。自分がどれほどインターネットに頼り、普段から世の中の動きに興味をもって気を配ってこなかったのかという事を痛感した。求められているのは知識の量ではないと理解はしているつもりだったが、ついつい答えを外に求めてしまった。自分で考えて答えをだすということがこんなにも苦手だとは思わなかった。グループワークを通して、グループのみんなと知識やアイデアを出し合って一つの形をつくるのはとても難しかったし、問題に対して出した答えも全体的に完成度の低いものだったかもしれないが、私にとってはいい経験になったと思う。この経験をこれからは生かすことができればいい。
- ・各大学からの学生で構成されたグループで、本当にメンバーに恵まれたと感じた。



普段から考えないようなことについて、限られた時間の中で集まり、班員の意見を出し合って、密度の濃い時間を過ごせたのではないかと考える。

- ・グループワークで他大学の方々と意見を交わすことなんて、中々ないことだったのでとても新鮮で、なおかつおもしろかったです。ただ、グループワークとして成り立たせるものを全然知らなかったのには驚きを隠せませんでした。そのため、あまりグループディスカッションを上手くできなかつたので、この経験を次に活かしていきたいと思いました。
- ・非常によかったと思います。アカデミックな内容について他大学と議論しあうことはとても新鮮でした。このグループワークを通して、各大学の強みと弱みがあるということを理解することができたと思います。そして、インターネットで調べるという手段がなくなったときに、いかに自分の頭で考え、発言していないかということにも私は気づくことができたと思いました。
- ・グループワークでは大阪大学の方が色々な案を出していく中で兵庫県立の方がそれをうまくまとめていって、とてもグループワークの仕方の面において参考になりました。



2日目 「港湾他インフラの機能強化と交流拡大による地域活性化」

<報告内容>	
「関西における物流戦略チームの取り組みと今後の課題」	上村多恵子(京南倉庫代表取締役社長、京都経済同友会常任幹事、関西経済同友会幹事)
「世界の港湾・クルーズ動向・地域活性化に向けて」	赤井伸郎(大阪大学教授)
現場編 参加港湾における取り組み	
石川県, 徳島県, 敦賀市, 八代市, 福井県, 境港管理組合, 静岡県, 島根県, 福岡市	
「安全で開かれた日本実現のために～ビザ緩和の効果について～」	
<WEST(論文研究発表会)最優秀論文賞受賞・ISFJ(日本政策学生会議)政策提言賞受賞論文>	大阪大学法学部国際公共政策学科3年生グループ1
「我が国の国際コンテナ戦略港湾の集荷力に関する一考」<WEST(論文研究発表会)分科会賞受賞>	大阪大学法学部国際公共政策学科3年生グループ2

- ・ 沢山の港湾関係の方々に乗船されていて、色々な県、市の港湾に関する政策、方針を聞くことができ、興味深かったです。この講義を通して、クルーズ誘致がいかに地域活性化にとって大きな期待をかけられているのかがわかりました。今まで港湾について意識したことはなかったけれど、貿易においても、観光においても、海路が重要であることがわかりました。
- ・ 「日本という国があって、その中に多数の自治体が存在する」と国全体を優先してとらえるか、「多数の自治体が集まって日本」と地方主体にとらえるかで見え方も大きく違ってくる。前者のような動きが一般的には叫ばれており、後者の考え方は批判されがちである。しかしだからといって、簡単に地方を切り捨てるのもまたよくないと思う。当たり前のことかもしれないが、実際に地方の方々のお話を聞いて改めてそのように感じた。上村社長の「選択と集中」というお言葉、阪神港の一開港化など、効率化のお話のあとで地方港湾関係の方々のお話を聞いたのは、なんとも対照的な感じがした。
- ・ 自分自身今まで自治体の人のお話を直接聞く機会はあまりなかったが、実際に話を聞いてみて各自治体ごとにそれぞれ特色があるのだということを実感した。個人的には自治体で働く公務員のひとはまじめでしっかりした印象があったが、よくわからない自分の話を中心におもしろく話す方もいて、聞いていてとてもおもしろかった。
- ・ 各々の港湾関係者たちが自分たちの地方行政でどういう政策を持って地域の活性化を目指すのか知れて新たな視点を頂いたような気がした。正直寄港地となるためにクルーズを誘致することの重要性について個人的に考えたことがなかった。寄港地になることでその港湾は世界のクルーズサイトに投稿され一回でも自分の地方の名を世界の様々な場所に伝達できるというメリットにも気づけなかった自分が情けないと思った。しかし、今回の港湾関係者の話を聞いて港機能の強化がいかに地域経済の活性化のキーになれるか気づき、その話を聞きながら我が国である韓国の港湾現状について考えてみたら 港湾における自分なりの考えを持った。しかし、話を聞きながら、最も残念だった点は各々の港湾関係者は自ら所属している港湾を活性化させようと努力していたが、特徴的に目立った政策はなかった。どういうことかと言ったら、結構多くの政策方針がほかの地方行政の方針とかぶるパターンが多かった。どちらかといえば、港湾自体の地理的位置の違いに左右される傾向にあったため、どうやれば地域活性化に繋がるかを今後個人的に興味を持って調べていきたい。
- ・ まさに津々浦々のそれぞれの取り組みを聞くことができ、国全体や旅行客の立場ではなく地方自治体の視点でクルーズを眺めることができる貴重な機会であった。



また、先輩方の阪神港ハブ化のプレゼンも、反論や意見を聞く中で立場を替えればそれなりの理屈もあるということを知り最善解をどう設定するか、そしてどう導くかの難しさを感じる事ができた。そのためにも、判断ツールを増やしたいと思い、学業で更なる研鑽を積みたい。

- 各港湾の取り組みを聞いていて、ぜひ誘致を頑張ってもらいたいという港と、クルーズ船を誘致するのにあっていないと思う港がありました。観光地づくりができていないかつ周りの県にも目ぼしい観光地がないとなると、港を作った方がいいが誘致できなかったということになりそうだと思います。

- インフラについて、浅い知識しか持っていなかったため、どの話もととてもためになった。特に上村さんの現在のインフラの話や、進んでいる計画など、かなり自分の住んでいる地域の近辺のことでも全然知らなく、現状の問題点やそれに対応するために行っていることなど、聞いていてとてもためになった。2日目のスマート・クルーズ・アカデミーでは、港湾関係者によるその地域が抱える



課題やその課題に対する取組、その過程での苦労など、現場関係者でないと分からないようなことをたくさん聞くことが出来ました。なによりも、スマート・クルーズ・アカデミーが終わったあと個別に聞いたお話が一番楽しかったです。ここでは、スマート・クルーズ・アカデミーでは話を聞くことのできなかつた方から港の話からそれ以外の話までいろいろお話出来ました。特に横浜市の職員の方のお話が面白かったです。ぼくは昔横浜に住んでいたので懐かしいお話がたくさんできました。インフラの運営主体を変えることによって、ダイナミックに改革することが可能になるというのを様々な方面から確認するアカデミーだった。各自治体の方の発表が三者三様で面白く、クルーズ招致への思いも感じた反面、ここでも運営主体の問題があるように思えた。中盤以後は雨漏りが大変だったためほぼ参加できていない。ビザの論文はやっぱり良くまとまっていると思った。

- 正直、港湾に普段から興味があるというわけではありませんでしたが、今回のお話はとても興味深かったです。ひとくちに9港湾といってもそれぞれに



特徴や問題点などを抱えていて、それぞれがなんとか自分たちの港湾を効果的に効率的に使おうと試行錯誤されているのが伝わってきました。そのようなお話を聞く中で、港湾事業に関わらず、自治体の方々がどのように施策を考え実行しているのかを見ることができました。私たちはいつも論文の中で、いろいろ

な要因に気を配りながら特定の自治体や国にとって効果的な施策を分析から提言していますが、今回のお話を通して実際に実務者の方々がレベルは違えど私たちと同じように日々悩まれている様子を垣間見させていただき、また分析だけでは不十分なところを補って施策を考えていってやることを拝見し、勉強になりました。

- 各地方港関係者が短い時間であったがリレー形式で取り組みを解説してくださった。印象として、どの港も多少の差はあれ、同じようなことをそれぞれしているように感じた。我々が研究を進めてきた港湾政策の発表もさせて頂く機会があった。これまで国目線、神戸港目線で現状分析を練り上げ、政策を考えてきたが、企業目線、地方港目線で捉えると全く違う見え方が出来たり、「物流経路を決めるのは民間」という根本的な考えが欠如していたことに気づかされるなど、勉強になる講評を頂けたことが大きな収穫となった。
- 港湾班の発表を受け、上村先生が「航路を最終的に決めるのは荷主だ」と仰られていたのが印象的でした。いつも、政策提言を考えるときは政府に対しての提言という考えが頭にあるので、どうしても民間のセクターには注目が薄れてしまいがちになっているような気がします。また、各港湾の方々のお話を聞いて、その中でも私の地元である福岡の中村さんのお話を伺うことができ非常によい経験になりました。
- この日はスケジュールも大幅に押していたにもかかわらず、各地方港の港湾関係者の方々は限られた時間をいっぱいに使って、熱心に自身が担当する港について熱くかたってくださいました。感じたことは、どの港も前を向っていて、大きな目標を掲げているということ。博多港は日本一の国際乗降客数であるが、更なる進化を求めてウォーターフロント区域の再整備を試みていたり、清水港は日本を代表する富士山があることを武器に、大型クルーズ船を迎え入れることを視野に入れて対応できる岸壁の建設を考えていたり、港によって様々な施策があることが分かった。日本の港湾はいろいろな課題をもっているが、「集貨」だけでなく、「創貨」や「通貨」といった視点から見るということを再認識



できたのは大きな収穫だった。港湾関係者の方々との議論を通じて、港湾についての関心が更に高まりました。

- 去年港湾を研究していたので、上村社長の発表は非常に興味深く、私たちが目標としていた港湾のあり方は間違っていなかったのだと確信できた。自治体の方々の発表は、実際に今回のクルーズで訪れた寄港地を観察するポイン



トの参考になった。クルーズを誘致する側の人から直接話を聞いた後すぐに、自分達がもてなされる側になるのが、とても面白かったし実感がわいた。クルーズ・アカデミーの最後は、港湾班とビザ班の発表だった。港湾関係者が多かったため、港湾班へのフィードバックをたくさんもらえて嬉しかったが、一方でビザ班へのフィードバックがまったくなかったため、精通し

てなくてもいいのでそちらにもコメントをしていただけたらよかったと思う。

- 1日目のアカデミーでは、なんというか研究者が考えていることを学んだが、2日目では自治体の方の話を聞くことができ、実際、自治体がどのように動いているのかといった運用の部分の話を聞くことができ、「理想と現実」ではないが、実際直面している問題に関する理解が深まった。
- 港湾について現場で働かれている方のお話が聞けて、貴重な機会であったとは思いますが、港湾担当の方だけでなく、観光担当の方のお話も聞ければより嬉しかったと感じました。というのも各港湾担当の方がクルーズを誘致する際、同時に観光担当の方がクルーズで訪れる人への対応や地域のPRなどの方策を考えるなどといった、2者の間での連携がどのようにおこなわれているのか気になったためです。港湾担当の方の考えはもちろん、加えて観光担当の方から見たクルーズ誘致の効果や、誘致のための対策、経済効果をより大きくするための取り組みについてもそれぞれの港について伺いたいと思いました。
- 上村社長には、物流について講義いただいた。生産から消費までのロジスティクスを、いかに早く安くすること、これはあらゆる産業の根幹にかかわることであると感じた。ロジスティクスがしっかりと確立できている企業ほど、安定的に成長を続けられるのではと思った。赤井先生には、クルーズ事情と進行について話していただいた。世界の利用客の半分はアメリカであることは、驚きであるとともに、クルーズとアメリカ文化の関わりも注意して見なければならぬと感じた。日米の中流階級層が、どのようなライフスタイルを送っているか、もし日本人があまりバカンスを望んでないとしたら、クルーズ需要はこの先も伸びていくかどうかは定かではない。
- 上村社長や港湾関係者の方の講義は、港やそれに付随する産業の機能について、立場や地域によって違う見解を聞くことができ興味深く感じました。特に実際に関わって働いていらっしゃる上村社長のお話を聞くことができ貴重な経験だったと思います。また、大阪大学赤井ゼミの学生の研究論文の発表を聞かせていただいたことは本当に感謝しています。ビザ緩和についてのテーマは、着眼点が



とてもおもしろいと感じました。はじめに置いたテーマ・目的に沿う終着点を作ることは難しいのだと感じましたが、丁寧に調べて研究、発表されているプレゼンを見て自分の卒業論文へのモチベーションアップにつながる刺激をいただきました。

- 時間が非常に短かったため、どの港湾の方のお話も頭出しくらいの部分までしか聞けなくて、それが非常に残念だった。各港湾との協力が今の課題だと感じた。阪大の学生の論文発表は、今までにないデータの取り方をし、そこからまた新たな政策を提言しており、阪大の学生たちの自発的な研究の姿勢に驚いた。私たちも負けないように卒業論文を頑張らなければと思った。

- 各港湾地域の現状と、今後に対する取り組みなど、限られた時間の中で、たくさんのお話が聞けたと思う。私自身、とても興味深い内容に感じた。各地で、多様な工夫が成されており、成果の少しずつ出ている地域から、まだまだこれからの地域もあつたりで、本当に様々な実態があることが、よく分かった。



- 赤井先生のお話で、クルーズの立ち位置について具体的に知ることができたと思います。また、ふつうのヨーロッパ旅行と値段が変わらないのに色々な場所を回ることができるのにとっても驚きました。クルーズの経済効果は地域を活性化させるのに大きなものになると思いますが、それをするにはまず寄港してもらわないといけないし、それをするための整備などが大変そうだと思います。特に、日本のような小さな国では中々難しいと思いました。

- 上村社長がお話をされているときに、「いくら、ネットが発展したからと言って、人が運ぶということの上でネットは成り立っている」という言葉を聞いて、インフラの重要性を再確認することができたと思っています。しかし、港湾の方々のプレゼンは、熊本の人しか覚えていません。それ以外の方々は何を伝えたいのか全く分からず、資料を配ったらわかるような話が多かったと思います。

- 色々な港湾の方がして下さる中、まだクルーズ誘致が出来ていない港湾の方の誘致政策というのを聞くことが出来面白かったです。個人的に気になったのが今回関西、九州地域が多かったのが東北の地域でのクルーズというのはどのようなものかです。そして内陸国はクルーズ誘致が出来ない代わりに何かしていることがあるのかと興味広がる良いきっかけとなりました。

各寄港地の港での乗船下船時の対応とその改善策

<出発港乗船時>

- ・神戸のチェックイン時はもたつきすぎていて、しっかり研修がなされていないのが見えてしまった。もっと人海戦術でさばけると思う。神戸港は比較的慣れている港のはずなのにそのような状態ということは、不慣れな他の港ではもっと手間取ることが容易に想像できた。
- ・対応は全般的に良かったと思うが、特にチェックインで時間がかかったのはストレスを生むと思う。オンラインチェックインをしていた人もしていなかった人とほぼ同じ時間がかかるのはよくなかったと思う。もう少し人員を増やした方が良さそうなのと、機械の使い方を潤滑にする必要があると感じました。
- ・神戸の乗船時は、建物に入って、どこで荷物を預け、どこでチェックインするのか、問題があればどこに行けばいいのか、表示がされていない。チェックインカウンターも即席で、スタッフの手際も非常に悪い。Webチェックインができていない場合、チェックイン時に書類記入をさせていたが、列に並ぶ前に書類を配るなどしないと、効率が悪い。(webチェックインしているか否かでレーンを分けるなどの配慮があっても良い)。今後、大型船の発着拡大を目指すなら、チェックインカウンターを作る、チェックイン地点から船へのアクセス路を作るなど、ハード面での整備が必要だろう。また乗客と見物客で建物がごった返していたので、乗客の待機場所をきちんと確保できるように配慮がほしい。
- ・乗船下船時に一番待たされ、煩雑な印象を受けたのが神戸港からクルーズに乗るときだったクルーズで、シーパスカードの顔認証の登録など行なうのに長い間待たなければいけなかった。気になったのが、手続きする人の手際の悪さだった。



<寄港地下船時>

- ・多くの人が一気に下船するので、動線の案内をわかりやすく表示するか、誘導する係の方を配置することが鍵
- ・基本的な情報をターミナルにいる係の方の間で共有しておく必要がある
- ・周辺の地理や交通情報については、船内で情報を入手できるようにしたほうが、下船後がスムーズ
- ・無料のシャトルバスのない寄港地では、主要な観光地にタクシーで(電車・徒歩)

- でどれくらいの時間・費用で行くことができるか、という情報が有用。
- ・ターミナルで受ける印象や利便性は、寄港地全体の印象を左右するのでは。

<寄港地のおもてなし>

- ・日本の港のおもてなしは、やはりどこもよかった。
- ・長崎での見送りは日本人らしい温かさがあって、印象がよかった。
- ・沖縄と別府での出迎えでは、独特のお土産がもらえたからだ。特に別府はクルーズ誘致などによる観光客受け入れに力を入れているのがはっきりとわかるほど出迎えがすごく、また観光の案内所もしっかりしていた。
- ・日本の港ではどこもお出迎え、お見送りをしてくれてとても印象が良かったです。私が一番良いと思ったのは別府と長崎です。別府のほうは、出たところでゆるキャラが大集合していて温かい歓迎でした。また見送りの際には神楽のようなことをしており、ブラスバンドはありきたりだと思っていたので、音色が一味違い、日本らしくてよかったと思います。長崎の見送りはブラスバンドでしたが、子供たちが船のほうに駆け寄ってきて叫んでいたのが良かったです。スポーツデッキに出てみていたのですが、周りにいた大勢の台湾人の方々が、言葉もわからないだろうに大声で叫び返していたのを見て、温かい気持ちになりました。
- ・大分はゆるキャラをはじめ、自分たち地元のものを利用した出迎え、見送りがあって、あまり華々しいものではなかったが自分はかなり楽しめた。
- ・歓迎・送迎の時間を、乗客が乗船する・下船する時間に合わせて、行う方がよいのではないかと思う。いったん船の中に入ってしまうと、乗客は船のアクティビティに参加してしまうことになるし、わざわざ送迎を見に行くことはないと思われる。また、ボイジャーが大きすぎて、船の中からだと歓迎の様子があまりよく見えないということもあり、時間を見計らって、行くべきだと思った。
- ・歓迎は乗客の側に立つととてもありがたいうえ、旅の魅力にも影響すると感じた。一方で、今後クルーズが普及していくとすると行政の負担も増大し、やがては廃止、縮小していくと思うので、おもてなしありきのクルーズ誘致より、果たしてその地域の観光産業にとって最適かどうか、採算性はあるのか再検討すべき。



各寄港地の魅力およびその発信方法

<全体>

- ・短い寄港時間だけでは、寄港地の全ての観光地を見ることはできない。しかし、これを機に、もう一回行ってみたい、別の仲間に紹介したいと思わせることができれば、観光客の増加を見込むことができ、地域活性につながるのではないかと。
 - ・今回は、どの寄港地も観光地として一定の知名度があるところだったため、どこの港も売り出し方がうまいな、と感じた。当初、港には物販スペースがあった方がよいのではとも思っていたが、長崎のような港の比較的近くに観光地（グラバー邸）があるようなところでは、その必要も無いのかな、と思った。唯一残念だったのは、那覇での移動手段だった。国際通りやゆいゆいバスのバス停までの往復バスを出してほしかった。雨の中、国際通りまで歩くのは結構おっくうだった。今回はなかなか天候に恵まれなかったが、港で傘やカップを売ってくれたら便利だな、と思った。
- 
- ・今回の寄港地に対しては各々の特徴が十分に発信できていたと感じているが、やはりその寄港地としてより多くの人に焼き付けるにはその港湾の周囲に何かあるかといった利便性ではないだろうか。いくらお出迎えが派手であったとしても、その現地ならではの雰囲気や特徴がなければ次回もこの場所を訪ねてみたいという気持ちにはならないような気がした。そのため、まずはその周囲を発達させるか交通インフラを整備して港湾から都市部および観光地に向かいやすく整えるべきだと考える。
 - ・クルーズによる波及効果が及ぶ可能性がある地域は県の枠にとらわれずに連携して行ってほしい。また、国土軸を前提とせず、逆に日本海側の都市に寄港して太平洋側の都市にツアーを組むなども可能。特に外国人の多い航海では観光だけでなく消費の目的を果たしうる都市かどうかとも考慮して立候補すべきである。
 - ・観光時間が比較的少ないクルーズ船に対してアピールをするのであれば、見どころがたくさんあることに加え、それぞれの場所が近いかアクセスがよいこと、港からその場所が近いことが大きなアピールになると思います。また、ありきたりですが名物の食べ物を前面に売り出しておくと、短い時間でもお土産を買ってもらうことができよいかと思います。
 - ・寄港地に着く前の船のなかでの宣伝、広告がなかったことは非常に問題であると思う。寄港地でどこに行くのかを決めるのは寄港地に着いてからではなく、船の中で多く的人是決めると思うので、船内で寄港地の情報を流すべきであると思いました。日本人ならば、日本の寄港地のことはいくらか知っていると思うのです。

が、外国人の場合全く知らないことのほうが多いと思います。そこで十分な情報を出し、楽しんでもらわなければリピーターが増えることはないと思います。



- ・ 港と観光地の近さがクルーズ寄港地としての魅力にかなり関わりがあると考える。それに加えて短時間で見物できるものがあると観光したという気分になるのでそういうものがある観光地の方が寄港地ツアーも組みやすいと思う。発信方法は地図やリーフレットが大半でしたが、事前に今流しているものよりも

もっと詳細なビデオを室内テレビで流すなどするとより知ってもらえるのではないだろうか。

- ・ 台北や中国、釜山から近い、日本海側にある、などの地理的要因で招致の可否がほとんど決まってしまうのではないかとも思った。
- ・ 今回は全般的に大きく有名な港が多く、各寄港地の魅力もまわりきれないほど多く、発信の仕方もしっかりしていたと思います。港の観光案内も分かりやすく説明して頂きました。ただ、どの寄港地にも言えることですが、外国人へのアプローチが少し不足していると思いました。観光案内、飲食店でのメニュー、温泉での説明など、外国語での案内をより充実したものになればもっと外国人観光客の満足度は上がるのではないかと思います。
- ・ 長崎も別府も素晴らしい「おもてなし」があったと思う。別府ではターミナルで物品販売が行われており、現地の外国人スタッフがいることで、外国人旅行者も気楽に買い物を楽しめているようだった。
- ・ 乗客への観光地のアピールは不十分だと思う。寄港地案内を劇場とする(例えばショー開始前にスクリーンに映像を流すなど)など、もっと大規模に船内での宣伝があっても良いと思う。ターミナルには案内板が少ない。マップなどを配布していても、やはり案内板(日本語・英語・中国語など 複数国語対応)は欲しい。主な観光地の方角と距離などを知りたい。特に別府の場合、地獄めぐりという名勝へのアクセスが全く分からず、スタッフに聞いても 明瞭な回答を得られなかった。船会社のオプションツアー販促との兼ね合いで個人観光への情報提供は限定されるかもしれないが、ターミナル施設内には大きな地図や看板がないとさすがに不便である。
- ・ 正直思ったのは、どこに行っても、音楽を演奏して、踊り見せておしまいという感じで終わっている。もし、何か一つ、売り出したいものがあるなら、それを全



- 面に押し出したものにすればいいと思う。例えば、何か特産品があるなら、もう乗るといふ乗客に食べてもらう、とか、踊りが有名なら、踊ってもらうとか、いろいろな場所を周るので、より印象付くようなことをするほうがよいと思った。
- ・ 気になった点は外国人への英語対応です。今回のような大規模なクルーズは日本国内で完結することは少なく、基本的に韓国や中国、台湾などを回るものが多いかと思うので、外国人もある程度の人数が訪問するかと思います。ゴールデンルートを中心に訪日しがちな外国人にクルーズというきっかけで、九州といった普段目をつけられにくいところも訪問してもらえるのは、その地域にとって大きなチャンスだと思います。その機会を活かすためにもターミナル付近を中心に英語対応をより進める必要があるのでは、と感じました。
 - ・ 日本とはいっても全く違う歴史がある沖縄、江戸時代から世界に開かれ港として栄えてきた長崎、地震大国であると同時に温泉大国でもある日本の有名な温泉地のひとつ別府。この三つの港はそれぞれ日本の中でもかなり色の強い観光地である。それらが一気に周れるツアーはかなり日本内外の観光客にとって魅力的だと思った。
 - ・ 各寄港地でのお見送りが、各寄港地の魅力を表していると思いました。だから、これはずっと継続させてほしいと思いました。また、発信方法ですが、発信方法に関しては特に不満もありませんでした。下船した地でのターミナルに観光名所のパンフレットがたくさん置いてあるのはいいなと思いました。

<神戸港>

- ・ 神戸港の長所として、かなり立派なターミナルがあったり、日本有数の観光地が数多く、かつバリエーション豊富に周辺にあったりするため、それを乗客にプロデュースしていったらよいのではないかと感じた。
- ・ 神戸港はとても大きいので、他の港よりも大型船が出入りしやすいのではないかなと思った。ポートターミナルから三宮までは主にポートライナーを使うが、タクシーの送迎などもしやすい環境になっていると感じた。



<那覇港>

- ・ 沖縄国際通りには、他には売っていないようなお土産、食べ物（海ぶどう、ちんすこうなど）がある。その固有性をもっとアピールしていくべきだと思う。
- ・ 那覇はおそらく歴史と自然が魅力ではないか。日本国内だが全く異なる文化背景を持っているので、食文化や歴史などに触れられる機会があれば魅力だと思う。実際に街中を歩けば外国人にもわかりやすいような構造になっており、首里城で

は歴史や文化を知ることができた。英語が広く浸透しているので、クルーズ客にとっては観光しやすいと感じた。

- ・ 下船してきた人、ひとりひとりに対して星の砂が入ったストラップが、配られていた。ひとりひとりを歓迎する心遣いを感じられた。「Be. Okinawa」という、キーフレーズを立て看板の隅など、あらゆる所に用いて、PRしていたのが印象的であった。また、立て看板のデザインや、出迎えてくれる人々の服装から、沖



縄らしさを感じることが出来るようになっていたと思う。もう少し強調してもよいと思った。

- ・ 試行錯誤をされており色々な取り組みをしているのだなと思いました。各寄港地では比較的観光名所が近いというのが一番自分の中で評価できる場所だと思いました。

<基隆港>

- ・ 台北を中心に観光客が多いので受け入れ体制が整っている。無料Wi-Fiもあり、便利に観光できる。台北の中心地や故宫博物院、九ふんなど観光スポットは多いので、観光客が個人で選んで行くのがよい。観光スポットは多いが、地理的に離れていることが多いので、滞在時間が短すぎる可能性がある。もう少し長く滞在できるようにすれば、もっと効果があるかもしれないと思った。
- ・ 食事がとてもおいしいと思いました。食が安全だという信頼はアジアではとても貴重だと思ったのでもっとアピールできれば良いのではと思いました。
- ・ 港と町の距離がとても近いことが魅力だと感じました。台北とは町の雰囲気はかなり違うと感じましたし、港との距離の近さを強みとしてより活かしていくことが良いのではと思いました。基隆は特に夜華やぐと聞いていたので、寄港地で停泊しないクルーズではその様子がデッキからしか眺められないことは少し残念に感じました。
- ・ 船から見える山の中腹にKEELUNGという文字が見えて、基隆に来たぞ、という感じがして、単純な感想だがとても大切なことではないかなと思った。長崎の神戸とは違う自然にできた港はそれで魅力的だが、港を出て街に入るまであまりその独特の雰囲気を感じることはできなかった。
- ・ 下船してすぐの場所から、人々の生活の場が広がっているように感じた。港に入



っていく途中に見えるコンクリートの壁などには、イルカの絵などが描かれていたり、ユニークな面もあった。乗船する際のチェックが、他よりも厳密に行われているように感じた。

<長崎港>

- ・ 既になんかなり整備されていて、港の近辺には有名な観光地もあるため、そのPRにより力を注げばいいのではないだろうか。
- ・ 長崎は他の寄港地に比べ、徒歩圏内に観光地が多数あることが大きかったと思う。回りやすさに関しては抜群だった。
- ・ 国内でも海外に開いている歴史が古く、町の人も構造も、クルーズに慣れている印象を受けた。港から町が比較的近いので、少ない時間でもゆっくりと観光を楽しめる。軍艦島や出島など、船からフェリーへ交通手段を変えて観光するのも、他の港にはない特徴かもしれない。情報発信に関しては、ポートターミナルをもっと活用できるのではと思った。ただ長崎がすでにネットでも情報発信をしつかりされていて、外国人も特段不便もなく観光スポットに行けそうでもある。
- ・ 港の形が入り組んでいる様子が基隆と似ていると感じました。港が入り組んでいることから、コンパクトな範囲で港のまわりはとても発展していて今回クルーズで廻った港の中でも特別魅力的に感じました。大型船が入ったときに姿が見えなくならないよう近くの建物の高さに制限を設けているということをお聞きしました。長崎は急勾配が港のすぐそばにあり、少し上から船の様子がきれいに眺めることができたのでそうした制限がきちんと活かされているのだと実感しました。また、港の観光案内の場所がわかりやすいと思いました。
- ・ 下船して、徒歩で行ける範囲内に、グラバー園などの観光名所があることが、この港の強みなのではないかと感じた。また、市内は路面電車で移動できることも、魅力の1つなのではないかと思った。長崎には、免税店がないことから、下船してすぐに、佐賀にある免税店まで買い物に行く外国人観光客が多いという話も聞いた。長崎を、観光客に楽しんでもらうために、工夫を凝らしているといった話も聞いた。長崎を、船内やクルーズのプランを立てる時点からアピールできれば、下船後、他県に向かう観光客も減るのではないかなと、考えた。



<別府港>

- ・ 日本でも有数の温泉があるのに、時間的にそれを全て堪能することは難しいので、温泉以外にも食事や買い物といったものを港やバスの近くに整備すれば乗客は快適に、別府はより多くの利益を得ることができるのではないだろうか。

- ・外国人旅行客がバスに乗る際、整理券を受け取るというルールを知らなかったり、行先が分からなかったりして困っていた。私がお手伝いして事なきを得たが、運転手が英語を話せなくても、外国人が公共交通機関を利用しやすいような配慮（表示をする、メモを配れる）が欲しい。
- ・別府で印象的だったのは、下船してすぐに入らされたプレハブの建物でのおもてなしが豪華だったことである。別府で有名な竹細工のストラップや耳かきまでもらえたり、マスコットキャラクターがいたり、お土産を売っていたり、地元のテレビか何かの取材まで来ていた。他の港では、ここまでやっているところはなかったので違いが顕著に感じられた。
- ・別府は寄港地の中で最も知名度が低いと思われるが、歓迎に多くの人が集まって、別府を知ってもらおうと広報していた。別府は観光スポットとしては温泉が主体だと思われた。温泉の価値は外国人であろうが日本人であろうが伝わると思うが、温泉という文化自体、外国の方には馴染みがない。別府には数多くの温泉があるが、外国の方に対応しておる温泉はあまり多くはないようだ。もし、別府が温泉を観光資源としてクルーズ客を呼び込もうとするなら、もっとオープンな温泉を街全体が提供していかなければならないと思った。ただ、現地の方は真摯に外国の方に日本語で教えていたので、看板など簡単な心がけですぐに改善できるとも感じた。外国の方の不安が取り除けられればそれで良く、あとは現地の方と交流がはかれればなお良い。
- ・クルーズ船への歓迎のムードに感動しました。到着した時にゆるキャラやご当地アイドル、工芸品のお土産で迎えていただいたことやお見送りしていただく時の催しにとっても感動しました。ただ、実際に足を運んで行った温泉などの観光客が入るところにあまりそのムードは伝わっていないように感じました。観光に関わる地域一帯で協力して取り組めば、クルーズ観光客が送迎の様子、温泉地での歓迎から別府を一つのまとまりとしてより良い印象を強く持てるのではないかと思います。
- ・市内に向けて港から出発する無料のバスがあり、多くの人を利用しているように見受けられた。船を見送る際に披露されていた舞などが、地域の特性を表しているようで、とてもよかった。また、下船直後に入る施設内で、別府のお土産などが数多く販売されていたのも、効果的であると思った。
- ・出港する際、大音量の音楽とともに別府の方々が手を振ってくれていたのは感動的でした。また、入港するときにご当地の品をいただけるのは嬉しかったです。発信方法としては、インターネットや新聞などもいいと思いますが、口コミがも



っと広がるべきだと思いました。そのために船自体の満足度をより高くあげるべきだと思います。

- ・別府の発信方法を一番今回聞けなかった一つとして聞きたかったです。理由はあまり観光資源が豊かではないように感じるがどのような事を生かし誘致できているのかです。

地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割 — 港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえての国・自治体政策のあり方など —

- ・今回、港湾関係者の話をスライド発表という形で聞いたのはとても勉強になった。それぞれの自治体のセールスポイントや売り込み方も多様で面白かった。今回のクルーズ参加自治体がどのように決定されているかは分からないが、やはりクルーズ客船誘致の可能性は港や近接する観光地の規模に比例するのではと感じた。八代市の例のように規模の小さな自治体が隣接する自治体と協力していたり、福井県のように、近接する都市からの乗船や観光を見込んでそれをセールスポイントにしていたりと、色々な策があるんだなあとと思った。寄港地では、個人的には室蘭のときのような物販スペースがある方がありが



たいが、今回の寄港地では別府以外にそれがなかったので少し残念だった。長崎では観光地が港のすぐそばにあったので、物販が無かったのは納得だが、那覇は国際通りまで結構距離があったので、お土産や物産展のようなスペースが港にあった方が良かったと思った。

- ・自治体の方のお話を伺う限りでは、現在は多くの港でクルーズ船が寄港できるような機能を整備しているのかな、と感じました。ボイジャーのような大きな船が入ることのできる港や通ることのできる航路が日本には少ない、ということは、低価格で楽しめるクルーズの定着にとっては、あまりよくない条件なのではないでしょうか。ボイジャーは瀬戸内海を通ることができない、ということは、瀬戸内海沿岸の寄港地には寄港できない、つまり、寄港地としての選択肢がそれだけ狭まってしまっているということになると思います。そのなかで、ワンパターンな航路にならず、ある程度のニーズを確保していくのは大変だろうと思います。航路にバリエーションがあれば、クルーズへのリピーターもより期待できるのではないかと思います。

- ・仮に貨物用のターミナルへの寄港だったとしても（見た目の風景はあまり美しくありませんが）、今回のクルーズでいえば別府のような心に残る出迎え・見送りでカバーできるのではないかと思います。
- ・無料シャトルバスを出すにしても、出さないにしても、ターミナル付近での人の誘導は徹底しなければならないと思います。市内観光に出た乗客も困りますし、場合によっては地元の方に迷惑をかけてしまう恐れもあるからです。
- ・また、港湾関係の方々のお話を伺うなかで、迎え、見送りの際にその地域で特徴的な踊りや音楽でもてなす話を多く聞きました。確かに歓迎され、「またきてね」といわれることは気持ちいいものなので、そこに力を入れるのは正しいと思いますが、寄港地としては、短時間でより効率よくその街を楽しむことのできるプランを提供してほしいと思いました。今回、ゼミ旅行という形での参加でしたので、私自身そういった情報に無頓着であったことも一因であると考えられますが、毎日部屋に届く船内新聞と一緒に、翌日の寄港地に関する情報も届けるくらいのアピールをしてもいいのではないかと思います。
- ・八代港の方のお話が特に印象に残っている。釜山航路の補助金や、港湾関係行政側の管轄など、自治体としてできることには限界がある。それと同時に自治体に一定の権力が与えられるからこそ多数の港湾が乱立し、無駄が生じてしまっている。日本は人口規模、経済規模ともに世界的にも大きい国と言えるから、国としての意見の統一が難しい、というのもあるだろうが、そのあたりがなんとも歯がゆい。
- ・今回のクルーズでの港湾関係者及び港湾に関する講義を聴きながら、クルーズの地域活性化にどのように貢献しているのか具体的に分かった。最初はクルーズの寄港地になることによって得られる経済効果がどのようなものかわからなかった。なぜなら、クルーズが一時的に港湾に止まっている時間は大体7、8時間くらいしかなかったため、これによって下船した乗船客がその観光地で消費したとしても、地域活性化に繋がるほどではないと考えたからだ。しかし、今回のクルーズの乗船客の一人として、寄港地として寄れば比較的滞在時間が短かったため、次回旅行に来てみたくなるという人の心理に気づき、クルーズ客船誘致は十分に地域経済の活性化に貢献できると考えた。その上、より寄港地としての質を向上させるためには港湾から中心街や観光地でのアクセスの利便性を向上させるインフラ整備が必要だと考える。
- ・都道府県でなく関西や中国、北陸など、広域連合単位で寄港地候補や広域観光プランを策定し、船会社と協議すべき。本来経済効果を生かしきれないような地域や隣接して誘致合戦を行う港は個々で船会社に接待陳情を行っているようでクル



ーズ産業の後手に回っている気がする。それならばクルーズ会社の側から寄港を申し出たくなるようなプランを策定したほうがクルーズ産業の恩恵にあずかることができるのではないか。さらに、無駄な港湾整備・維持費に税金を投入することもなくなるのではないかと思う。

- 正直に言うと、プレゼンを聞いていて、あまり観光スポットや目玉のイベントに興味を惹かれない港もありました。まず港を作れば誘致できるというのではなく、まず観光地づくりにお金を投じたほうがよい気がします。観光地といってもなにも大きな目玉をたくさん作るというのではなく、私が長崎の街の雰囲気（ジャズコンサートをしていたり）にひかれたように町をあげて観光客を楽しませられる雰囲気を作るとよいのかなと思いました。
- どの自治体の方も言っていたのは、自治体同士の縄張りというようなものが障壁になってしまっているということでした。そんな障壁取り払ってしまえばいいのにと感じてしまうのは何も知らない学生だからだと思いますが、同じ日本国内の地域であるのでその障壁を超えることは可能だと思います。そのためには国が突っ走りすぎないように自治体と密に連携して取り組むことが不可欠であると考えます。
- 日本としてクルーズ客船を誘致していく方針は間違っていないと思う。しかし現状の誘致の方法は合理的であるように思えない。全国のどの港にもクルーズを招致する必要性を感じないからだ。例えば今回のクルーズで乗っていらっしやった一部の港などには、外国船を誘致するメリットをあまり感じない。なぜなら、観光地や買いものをする場所がそばにあるわけでもないのに、お金が地元に着ることがあまりなく、クルーズ会社もよほどいい条件でなければ寄港しないであろう港に大量の公共投資を行うのは今の世情とはかけ離れていると思う。

- 現状の寄港回数を見ていると、寄港地決定において、地理的要因、観光資源の多寡とアクセスの良さ、港湾設備の状況の順で重視されているように思う。なので、大型船が入れるように港を整備する港はもっと少なくて良い。民間の少数の船会社の少数の大型船のために多額の公共投資を多くの場所で行うことは無駄である。オアシス



クラスが来ることができるよう整備する港。セレブリティ・ミレニアムやサン・プリンセスが入ることのできる港、飛鳥Ⅱがぎりぎり入れる程度の港と、メリハリをつけた整備を行うことが重要だと考える。船会社も5~7万トンの船を多数保有しているのだから、無理に岸壁拡張を今計画しなくても良いと思う。港の管理者と地元基礎自治体が異なるのも動きづらい原因であるように思う。広域連合単位で協力できるような仕組みづくり(クルーズ活性化会議がそうなのでしょう)をおこなわないと協調ができず、ちぐはぐな政策となってしまうことを危惧する。

- ・率直に言うと、今回の9港湾すべてがクルーズ船が寄港するための港湾整備をするべきだとは思いませんでした。というのもクルーズ船の寄港による経済効果が港湾整備費用を凌駕するようなものであるか私にはわからないからです。確かに、クルーズというのは寄港地観光が目的ではなく、「船内を楽しむために乗る→寄港以外の普段の旅行ではなかなか行かない地を観光する→その土地の観光収入が増える」というのは一理あると思いますが、例えばリピーターがあまり期待できないような場所では一回限りの訪問となる確率が高く、大きな観光収入の拡大、ここでいうクルーズ船誘致による大きな経済効果を見込むことは難しいのではないかと感じたからです。
- ・せっかく多くのクルーズ船が日本に寄港するようになった今、寄港経験を得た港がその経験をきちんと蓄積し、もっと協力して効率よく整備を進める方が良いと感じた。また、地理的環境やコンテンツ力、港の規模などから、クルーズ船への対応をするコストと実質的な利益を比べた際、港によっては利益性が低いのではないかと推察されることもあった。そうしたことから、国はクルーズ拠点港としていくつかをピックアップし、選択と集中の観点からクルーズ対応整備を進めるべきではないかと考えた。
- ・地域活性化のために、ある一定数の購買意欲を持った客を一度に呼べるクルーズは非常に魅力的だと思います。しかし、あまり多くの港がそれぞれ自分の港に外国の客船を誘致しようとするすると数が割れてしまうので、近郊の港同士協力して誘致に取り組むのが効率的なように思います。
- ・港湾は他国との貿易や国内における貨物の移動、受け入れの場所のイメージが圧倒的だが、それらに負けなくらい、クルーズは地域活性化に大変有力であることに気が付いた。例えば沖縄は代表する観光地でもあり、クルーズからの下船者以外でも観光客は年中いると思う。けれど、数時間の滞在で有名どころの観光地を抑えれば満足できる規模の観光地もある。そういったところは長期休み以外の時期は観光客も乏しくなるであろうから、そういった時期の、クルーズの下船者が観光客として下船するのはいい機会だと思うし、観光客を誘導するように、クルーズの乗船者限定の割引だとか、クーポンを船内で配布するなど迎え入れる体制を強化し地域活性につなげたらいいのではと思った。
- ・港及びそのウォーターフロントは、国や地方自治体が投資をして作り上げ、また拡大をしている。小さい港から神戸港といった代表的な港を含めると日本には本当にたくさんの港が存在する。それらの港がもっと有効活用され発展して欲しいと思う。
- ・クルーズ誘致の地域にとっての一番の利点は、単体としては他の有名観光地（東



京・京都・大阪) に比べて目的地にはなりにくいと思われる地域も、クルーズの中で一つの寄港地として多くの人に訪れてもらい、実際に町を歩いたり観光スポットを回ったりして、その地域の魅力をじかに感じてもらえる点であろうと思いました。僕自身、別府や長崎に行こう、と思い立つことは今までありませんでしたが、クルーズの寄港地の中に入っているということで行くことになり、事前に調べてみると、どちらも思っていた以上に楽しそうな場所であることに初めて気づきました。実際に行ってみてやはり楽しかったですし、また来たいと思いました。そのことに関連して、有名観光地に知名度や集客力で劣る地域にとっては、短時間ながらクルーズのコースの中で実際に多くの人に訪れてもらえるというのは、その地域にとって何よりのプロモーションの場であるという考え方もできるのではないかと考えました。6時間という短い時間の中でいかに自分の街を気に入ってもらい、再訪しようという気持ちにさせられるかがそれぞれの港、その周辺地域にとってとても大切なのであろうと感じました。

- ・クルーズ客船が寄港することは地域の活性化につながるの概ね間違いないだろう。ボイジャーなら3,000人ほどの人が一気にやってくるので経済効果はあるだろうし、地域の人も外からやってくる人に影響を受けて、QOLの向上につながることもあるだろう。問題点としては、まず施設整備費と維持費が高いことである。クルーズ客船が週に数回やってくるような港(横浜、神戸、長崎など)であればよいが、週に1回も入らない港にとって、その施設をつくり維持することは本当に税金の有効活用になっているかは定かでない。しかし少なくとも地域に人が増えることは地域活性化のための根本的な解決策なので、整備が完成したうえでクルーズ誘致をすることは地方公共団体のこれからの目標になるだろう。
- ・港湾関係者の多くの方が発表の中でクルーズ船誘致、活性化のためそれぞれの地域の特色をうまく活用していくことをおっしゃっていましたが、それは将来クルーズ船誘致に成功・回数を増やすことができた後も観光客にお金を落としてもらうためには大事なことであると思いました。また、他の港と連携して日本海へクルーズ船を呼び込むという、金沢港のクルーズ船誘致のお話は特におもしろいと感じました。クルーズは寄港地ルートが大事だと思うので、各々で地域の魅力発信に力を注ぐよりルートとして考えられる他の港と協力してクルーズ船寄港地としての総合的な魅力発信を行うことが肝要なのだと学びました。
- ・陸も空も開発されつくした感がある今の日本で、海の交通手段であるクルーズ船はまだまだ発展途上な感じがした。クルーズに対する認識が低く、国もそれに対する注目度が低い。港を整えクルーズ客船を誘致することは地域活性化につながると理解はしていてもなかなか進まないのは単独での誘致が難しく、かといって他と協力しようとしてもそれもなかなか叶わない。それぞれの港



湾同士が連携、協力できるような仕組みづくりが大切だと思った。

- 例えば、長崎では、免税店を求めて他県に観光客が流れてしまうという話があった。クルーズ客船が運んでくる観光客の多くは、船の入港と出港に合わせて長崎に出入りする。せっかく観光資源が豊富な長崎であるのだから、それに合わせた観光プランなどを自治体が用意し、提案するのもよいのではないかと考えた。また、他県に観光客が流れる事から、いっそのこと他県と協力し合って、周辺の他県とともに、利益を得られるような仕組みや、観光客の誘致の仕方をしてみてもいいのではないかと考えた。
- 各県、各港で色々な取り組みがされていることに驚きました。海外の方々にとって、日本の持つ独特な文化はとても興味を惹かれるものだが、そういったものを有する地方こそ港の整備は上手くいってないということがわかりました。たった1回クルーズ船が寄港するために整備するためのお金を使うのかどうか、という話を聞いて中々難しいなと思いました。クルーズ船は毎年、大きく重くなっていくが、そのクルーズ船が寄港できるだけの場所が日本の港には作ることが難しいだろうと思いました。これからの課題は、それらにどう向き合っていくかだと思いました。
- このクルーズを通して、日本のトランシップ率が非常に低いということなど、日本の港の現状について知ることができ、よい経験となったと思います。海に囲まれた日本だからこそ、港について日本人々は、考え気づくべきなのではないかと、深く考えることができました。そのためにも、報道の在り方としても、港により目を向けるべきだと思います。

<=まとめの文章としてふさわしい と思い、最後にしました。(笑)



第4期クルーズ・アカデミーを終えて。

クルーズ・アカデミー取りまとめ役（赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）

多様な参加メンバーと交流の意義について

第4期である今回のクルーズ・アカデミーは、過去最高の参加人数であった。大学も3大学に広がり、大学を超えたつながりを得ることが出来たと思う。大学を超えたグループでのディスカッションの試みは、初めてということもあり、閉ざされた情報の中でのディスカッションということもあり、どの様な準備でどの様な議論をするべきなのかは試行錯誤の面もあった。課題は次回のアカデミーでのグループディスカッションに活かしたいと思う。また、大学を超えた学生同士の共同生活は、お互いに違った視点からの考え方を学ぶ良い機会になったと思う。

寄港地とクルーズ振興について

今回は、これまた過去最高の寄港地数（沖縄、台北、長崎、別府）であり、寄港地ごとの違いを学ぶ良い機会にもなった。参加者も、それぞれの寄港地での魅力、受け入れ態勢、クルーズによる寄港地の活性化のあり方、クルーズ振興には何が必要かなど、実際に体験したからこそ得られる情報を下に、レポートを作ってくれた。レポートでの述べられた意見は、今後の地域活性化およびクルーズ振興に、非常に役立つものであると確信する。

お礼と次回に向けて

スマート・クルーズ・アカデミーの開催にあたり、御協力いただいた関係者の皆様方には、心から感謝いたします。船会社・港湾関係者には、このレポートで得られた様々な意見を役立てていただき、今後のクルーズ振興につなげていただければと思います。（ボイジャーは、2014年11月に大幅改装が予定されており、このレポートで述べられた設備面での意見は、大幅に改善されると思われれます。今後も率直な意見は、改善への貴重な財産になっていくと思います。）また、乗船した学生も、クルーズのよさをアピールしてくれると思います。また、今後も、この企画を継続していくことが、新たな発見につながると思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

<なお、作成に当たり、写真引用や編集において、大石さま（静岡県）に大変お世話になりました。ここにお礼を述べさせていただきます。>